

■ 西武信用金庫

025-FY2019-01

地域活性化に資する NPO 団体・ソーシャルビジネスへの総合支援の取組み

【原則1】【原則2】【原則3】【原則4】【原則6】【原則7】

西武信用金庫では、2003年より、NPO等への積極的な融資や環境NPOへの支援により、環境意識を醸成する定期預金を開発。この取組は途中、東京都の「エコ金融プロジェクト」にも指定されました。

2013年からはこれらの取組を高度化させ、環境分野に限定することなく、福祉や教育、子育てといった様々な地域課題の解決に取り組む団体・活動に対する支援を地域金融機関の本業の一つとして実施しております（下記1～3）。

本取組は、日本財団の「わがまち基金」プロジェクト第一号として認定頂き、双方の経営資源を最大限活用し、高い評価を頂いております。このことで「地域力」を高め、持続可能な地域社会形成に貢献しようとするものです。

1. 『街づくり定期預金 with 日本財団』

定期預金利息の20%をお客様から天引きさせて頂き、同額を当金庫も拠出。日本財団の交付金を加えた金額をNPO団体等への寄付金の源資とする仕組み。

2. 『西武ソーシャルビジネス成長応援融資「CHANGE（チェンジ）」』

地域や社会課題解決に取り組むソーシャルビジネス、コミュニティビジネスなどの団体等が行う社会貢献性の高い事業の成長を応援する専用融資。

3. 『経営支援プログラム』

上記2融資先に、NPO支援の実績やノウハウのあるNPO法人などの専門家と連携し、事業成長を応援する経営相談、長期実践型インターンシップ等を実施

【特徴】

■ 寄付のみではなく融資も行い、また外部連携先の経営資源も活用して支援する金融機関の本業を通じた総合支援の取組です。

■ 当金庫職員がお客様へNPO等の活動を告知することで、お客様のNPOへの理解を高めたり、参画機会を提供しようとするものです。

■ 当金庫職員も、自ら告知をすることで、NPOやソーシャルビジネスに対する意識が培われます。

■ 地域には現役時代の豊富な知見、経験等を活かしたシルバー世代のNPOやソーシャルビジネスも多く、その活動の支援を行う事で、次世代への人材・ノウハウ・ネットワーク等の承継となります。また、地域から期待され「やりがい」を感じ、生涯「現役」という意識から、認知症予防等にも繋がり、結果的に地方公共団体の医療費負担軽減等にも寄与されるものと思料します。

■ 静清信用金庫

027-FY2019-01

環境基本方針の制定および「せいしん SDGs 宣言」の公表

【原則1】

静清信用金庫では、環境問題への取組みを企業の社会的責任と認識し、当金庫の取組みが地域社会における環境対策の一助として拡がりを見せることができればと考え、2003年より様々な環境活動を実施してきました。

2009年6月には、環境問題への取組みに関する基本的な考え方を示す「環境基本方針」を制定し、電力やガソリン、コピー用紙の使用量削減等に継続して取り組んでおります。

(<https://www.seishin-shinkin.co.jp/about/environment/policy.html>)

2019年2月には、これまでの活動を一層強化するとともに、国連が提唱する持続可能な開発目標(SDGs)を経営の柱の一つに加えるべく、SDGsに関する取組方針や重点推進項目をまとめた「せいしん SDGs 宣言」を公表いたしました。

(<http://www.seishin-shinkin.co.jp/about/sdgs/>)

027-FY2019-02

環境配慮型金融商品の取扱い

【原則2】

当金庫は、様々な環境配慮型金融商品の取扱いを通じ、地域の皆さまとともに環境問題に取り組むことを目指しております。主な商品は以下のとおりです。

ア. せいしん「環境格付融資Ⅱ」・せいしん「地元応援融資 成長サポート」

- ・省エネ設備等の導入や、環境・エネルギー事業といった成長分野への進出を希望する事業者の皆さまをサポートする融資商品を取扱っております。

イ. せいしん自動車ローン「グッド」・せいしん「リフォームプラン」

- ・エコカー購入や太陽光発電システムなどエコ関連設備等にかかる資金に対し、金利優遇を行っております。

ウ. 環境活動参加型定期預金・SDGs 応援定期預金

- ・2007年度より、販売総額の一定割合を環境団体等に寄付する仕組みを取り入れた定期預金を取扱っております。
- ・2019年には、SDGsの取組みを地域に普及・促進させることを目的に、定期預金「せいしん SDGs 応援定期預金『GOALS』」を販売いたしました。この定期預金も、販売総額の一部をSDGsに取り組む団体に寄付する仕組みを取り入れております。

【特徴】

- ・2007年度より継続している寄付金総額は3,683万円となりました。この寄付金は、県内小学校への出張環境授業や子供向け普及啓発冊子の作成など、有効にお役立ていただいております。

- ・『GOALS』を成約いただいたお客さまに、「みんなのSDGs宣言(※)」を記入いただきました。

(※) SDGsの17のゴールの内、関心がある項目または取り組む項目を選んで記入するカード

この宣言内容を取り纏めた結果は、SDGsに積極的に取り組む静岡市に提供しており、今後のSDGsに関する施策展開に役立てていただく予定です。

027-FY2019-03

「静岡市河川環境アドプトプログラム」への参加

【原則3】

環境貢献活動の一環として、静岡市と合意書を交わし「静岡市河川環境アドプトプログラム」の活動を継続実施しております。本部全役職員が参加し、安倍川河川敷に散乱しているゴミなどの除去作業を行っております。

027-FY2019-04

営業店独自の活動

【原則5】

当金庫では、本支店に「エコリーダー」を配置するとともに、全役職員をあげて地球温暖化防止に向けた活動を日々計画的に実施しております。

【特徴】

当金庫独自の社内表彰制度「GREEN 表彰」を設け、各店が趣向を凝らして実施した活動を毎年審査・表彰しております。この活動は2009年度から取組んでおり、審査に協力いただいている「静岡県地球温暖化防止活動推進センター」より、独自性ある取組みとして高い評価を受けております。

■ 京都信用金庫

034-FY2019-01

「SR・環境宣言」の制定

【原則1】

平成24年6月、「SR（社会的責任）・環境宣言」を制定しました。地域とともにSR・環境活動に取り組むために、当金庫の全役職員及び地域に対してSR及び環境に関する当金庫の基本理念と方針を示すものです。

当金庫は「持続可能な発展への貢献を最大化」することが最重要課題のひとつであることを認識し、「かけがえのない地球環境」を守り、エココミュニティの発展に全力で取り組んでまいります。

034-FY2019-02

環境配慮型金融商品の取扱

【原則2】

個人のお客様向けに「ECO優遇サービス」や節電支援ローン「エナジーセーブ」といった商品を取り扱っています。また、「ぶなの森」「地球力」など環境に関連する投資信託も取り扱っています。

034-FY2019-03

環境定期預金「みどりの絆」

【原則2】

ナラ枯れ被害から京都の山々を守る京都市の「京都みどりプロジェクト」と琵琶湖の水源である森林を守る滋賀県の「琵琶湖森林づくり基金」を支援しています。平成24年より環境定期預金「みどりの絆」を取り扱い、多くのお客様のご賛同により、京都市及び滋賀県に当金庫より毎年寄付をしています。寄付金は「ナラ枯れ対策等による京都の森林保全事業」（京都市）と「琵琶湖森林づくり事業」（滋賀県）に活用されています。なお、この「京都みどりプロジェクト」と「琵琶湖森林づくり基金」への寄付に対し、京都市と滋賀県より感謝状を授与されました。

034-FY2019-04

環境啓発活動

【原則3】

地域の皆様に当金庫の環境への取組を紹介しながら、ともに環境への関心を高めていただこうと、地域の小学生を対象にした「夏休み子ども環境教室」を開催しています。また「びわ湖環境ビジネスメッセ」などの環境展示会に参加し、当金庫の環境活動や地域貢献の取組を紹介しています。

034-FY2019-05

森林保全活動

【原則3】【原則4】

①「京都信用金庫 絆の森」

滋賀県の琵琶湖森林づくり条例に基づき、地元の森林組合と「琵琶湖森林パートナー協定」を締結し、地域と協働で琵琶湖の清らかな水を育む森林を守る活動を推進しています。

協定に基づき、組合の所有する森林の一部を「京都信用金庫 絆の森」と名づけ、当金庫役職員とその家族が草刈や植林などの森林保全活動に取り組んでいます。

②「フォレスト・サポーターズ」への参加

平成 23 年 5 月より、美しい森林づくり推進国民運動「フォレスト・サポーターズ」に参加しています。

034-FY2019-06

地域の清掃活動

【原則3】【原則4】

① 地域の清掃活動

各店舗で、地域の一員として NPO 法人や町内会など、地域の皆様と協働で近隣の清掃活動を行っています。

② 河川の清掃活動

環境保全活動の一環として、平成 23 年より大阪府と京都府の河川で、NPO 法人をはじめとする地域の皆様とともに清掃活動を行っています。大阪府では交野市と枚方市を流れる天野川において、シジミ、アユ、ホタルが生息できる清流にすることを目標に清掃活動に取り組んでいます。京都府では京都市を流れる桂川と山科川で活動に取り組んでいます。

034-FY2019-07

KES・環境マネジメントシステム・スタンダード・ステップ2SRの認証取得

【原則5】

平成 22 年度より、京都から立ち上がった全国規模の環境マネジメントシステム「KES・環境マネジメントシステム・スタンダード・ステップ2」の認証を取得しています。

さらに平成 24 年 10 月、持続可能な発展への貢献を最大化するために、従来の環境マネジメントシステムに ISO 26000 の要素を導入した新規格「KES・環境マネジメントシステム・スタンダード・ステップ 2SR」の認証を全店舗で取得しました。

SR・環境マネジメントシステムの構築により、当金庫の活動及び金融商品・サービスに係る SR 活動の向上及び環境影響の低減を推進し、役職員一人ひとりが積極的に SR・環境活動に取り組んでいます。

【令和 1 年度の SR・環境改善目標】

	SR 課題・環境管理重点テーマ	
SR 課題	地域のコミュニティ活動への参画	各部門年 1 回以上実施
	地域の美化・清掃活動の実施	各部門年 1 回以上実施
	環境配慮型金融商品の取扱	商品の取扱
	「子ども服のリサイクル活動」の実施	各部門年 1 回以上実施
	健康診断の二次検診受診の促進	受診率 100%
環境改善目標	事務用紙使用量の削減	5%削減（平成 30 年度比）
	地域の環境保全活動の実施	森林保全活動等の実施

034-FY2019-08

環境に配慮した店舗づくり

【原則5】

店舗の新築、改修の際に環境に配慮した店舗づくりを行い、事業活動から生じる環境負荷を最小限に抑えるため、「店舗新築、改修における環境基準」を制定しています。

平成 26 年 4 月に新築オープンした桂川支店では当金庫で初めて屋上緑化に取り組みました。地元の高校生が開発した京都固有のノシバを使った屋上緑化システムを導入し、生物多様性にも配慮しています。

034-FY2019-09

eco検定の受検推進

【原則7】

当金庫では、職員の環境に関する知識の向上と環境問題への対応に強い人材育成のため、「環境社会検定試験（eco 検定）」の受検を推進しています。

eco 検定を通して習得した環境についての幅広い知識を日常業務に活かし、CSR 活動に取り組んでいます。

■ 中日信用金庫

036-FY2019-01

「エコ設備投資応援ローン」の取扱い

【原則1】【原則2】【原則3】

愛知県信用保証協会と連携し、省エネ、省電力、環境に配慮した設備投資等の資金について融資する金融機関提案型の商品。他商品より金利の設定を低くしています。また、事業計画策定のお手伝いや、計画の進捗状況のフォローアップ、課題解決のためのソリューションの提供など、必要に応じて外部専門機関とも連携のうえ、顧客の経営支援をしています。(2015年8月～)

036-FY2019-02

エコ定期「私はCO₂削減を宣言します！定期」の取扱い

【原則1】【原則3】

環境省が推進していた「私のチャレンジ宣言」(1人1日1kg CO₂削減)キャンペーンに賛同し、チャレンジ宣言カードをご持参の方に預金金利を優遇するもの。また、預入残高に応じ当金庫が環境保全団体へ寄付することで、預金者は間接的に寄付に参画できる仕組みとしました。(2007年8月～2008年9月)

【特徴】

この取り組みを通じ「私のチャレンジ宣言」の参加者を増やし、CO₂削減の行動を後方支援しました。

036-FY2019-03

「生物多様性について考えてみませんか定期」の取扱い

【原則1】【原則3】

地元名古屋でのCOP10開催(2010年)を控えた2009年、インパクトのある名称の定期預金を取扱い、チラシや店頭で生物多様性に関する情報提供や店内装飾をすることで、当時認知度が低かった生物多様性やCOP10について、地元の関心を高めました。また、預入残高に応じ当金庫が「COP10支援実行委員会」等へ寄付する仕組みとしました。初回リリースは「国際生物多様性の日(5/22)」としました。(2009年5月～2010年10月)

【特徴】

生物多様性やCOP10について地元で関心を高める契機となり「生物多様性日本アワード」優秀賞を受賞しました。

036-FY2019-04

法人格付における「生物多様性」に配慮した取組みの評価

【原則1】【原則3】

取引先企業の生物多様性保全に配慮した取組みを評価し、法人格付に反映する仕組みを導入しました。中小・零細企業が多いため、評価する内容は簡便なものとし、取り組みやすいものにしました。(2010年4月～)

【特徴】

法人格付アップは融資金利が有利になるため、企業の生物多様性保全に配慮した行動の動機付けにつながっています。

036-FY2019-05

エコビジネスローン「元気くんG(グリーン)」の取扱い

【原則1】【原則3】

生物多様性や環境に配慮した取組みに関する資金について、無担保で融資する商品。当金庫の他の無担保商品より金利体系を低く設定しています。また、当該企業の生物多様性や環境に配慮した取組状況によって、さらに金利を優遇しています。(2010年6月～)

【特徴】

企業の生物多様性や環境に配慮した行動を、融資金利優遇の形で後方支援しています。

036-FY2019-06

地元中学校に対する生物多様性参考図書寄贈

【原則1】【原則3】

名古屋市他、当金庫の本支店の在する市町の全公立中学校に対し、生物多様性関連の啓発図書を寄贈しました。(2012年5月)

【特徴】

将来を担う若い世代に対し、生物多様性の重要性に関心をもってもらうきっかけ作りの役割を果たしました。

036-FY2019-07

「つなげよう！生物多様性 定期」の取扱い(2012年2月～2012年4月)

【原則1】【原則3】

「生物多様性について考えてみませんか定期」(2009年5月～2010年10月)のリニューアル版として、取扱いを再開しました。2010年に地元名古屋で開催された COP10 終了後も引き続き、地域の方々に生物多様性への関心をもっていただく目的で取扱いをしました。「生物多様性について考えてみませんか定期」同様に預入残高に応じ、生物多様性保全を支援する団体等へ寄付する仕組みとなっています。

036-FY2019-08

「みどりいっぱい！ 定期」の取扱い

【原則1】【原則3】

名古屋市等における都市緑化活動等を行っている団体等とタイアップし、当定期預金の取扱いを通じ、都市緑化活動への啓発等を行った。また、預入残高に応じ当金庫がその団体等へ寄付を行う仕組みとした。

年度	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
月	5月～7月	5月～7月	5月～7月	6月～8月	6月～7月	6月～8月	6月～8月	6月～8月

036-FY2019-09

名古屋市で開催される「持続可能な開発のための教育(ESD)に関するユネスコ世界会議」への寄付

【原則1】【原則3】

「ESDに関するユネスコ世界会議」は、環境問題などの現代社会の課題等を身近なところから取組むことを目的としており、地域において話題等にすることに努め、少しでも普及啓発の役に立ちたいと考え、寄付をしました。(2014年6月)

036-FY2019-10

環境に配慮した商品(消費者ローン)の取扱い

【原則2】

- ・「エコカー減税」対象車の新車購入資金に係る自動車ローンについて、低廉な金利・保証料設定での取扱い。(2009年5月～)
- ・太陽光発電等のエコ関連の購入、設置に係るリフォームローンについて、低廉な保証料設定での取扱い。(2013年1月～)

036-FY2019-11

環境配慮型店舗の開設

【原則5】

西春支店開設(2006年10月)をはじめ、清洲支店(2010年12月)、尾張旭支店(2011年12月)、名古屋支店(2013年4月)、名東支店(2014年7月)、中川支店(2015年12月)と、店舗新築の都度、太陽光発電システム、風力発電システム、駐車場の壁面・路面緑化、LED照明設置等、環境に配慮した店舗設計としています。

036-FY2019-12

電動バイクの導入

【原則5】

本店および西春支店に「電動バイク」を3台導入し、二酸化炭素の排出削減に役立てています。(2010年3月～2019年3月)

■ 桐生信用金庫

056-FY2019-01

カーボンオフセット通帳の導入

【原則2】

2011年2月より、計6種類の通帳を群馬県内の金融機関で初となる「カーボンオフセット」を利用した環境配慮型通帳に切り替えを行いました。当金庫が発注した通帳の製造工程で発生するCO₂を計量し、その排出量に見合う削減活動を、カーボンオフセットプロバイダーに依頼して実質排出量を相殺（オフセット）させる仕組みです。当金庫では、年間約90,000冊の通帳を発行しており、これにより年間で約4tのCO₂を相殺することが可能となっています。

【特徴】

オフセットの仕組みを通帳に組み入れました。

056-FY2019-02

「地球温暖化防止計画」策定、「環境問題取組方針」の制定、「群馬県環境GS」の認定

【原則5】

当金庫が独自に策定した「きりしん地球温暖化防止計画」に基づき、2008年度より電力・ガソリン・コピー用紙の使用量を毎月全店舗から報告させ、使用量の削減に向けた取組みを行っています。それぞれの目標については、これまで2009年度比▲10.5%を目標としていましたが、すでに目標を大幅に達成している電力、コピー用紙については、独自の目標を設定し、さらなる削減を目指しています。また、2011年度からは、環境問題への取り組み姿勢をより地域の皆さまに知ってもらうため、「環境問題取組方針」を制定したほか、新たな金庫統一の取組みとして、群馬県内の31店舗、2出張所が「群馬県環境GS（ぐんまスタンダード）」に申請・認定を受け、継続14年目となっています。

056-FY2019-03

店舗照明のLED化・太陽光発電システムを導入

【原則5】

移転新築や建て直しをした店舗では、太陽光発電システムや全照明のLED化を進めています。現在、当金庫の太陽光発電システムの導入店舗は7店舗（大泉・玉村・相生・川内・薮塚・新田・新桐生）、店舗内照明のLED化は5店舗（本町・川内・薮塚・新田・新桐生）1出張所（西（Kiricos 桐生））となりました。

【特徴】

環境負荷の軽減。

056-FY2019-04

出資証券のペーパーレス化

【原則5】

会員としての地位や権利には影響が無いことから、会員にとっては紛失・盗難などのリスクを排除、当庫にとっては発行・受渡・回収にかかる事務リスクの排除やコストの削減、さらに紙の使用量削減を通して、環境への配慮を目的としています。

【特徴】

環境負荷の軽減。

056-FY2019-05

第 24 回春の植樹デーに参加

【原則7】

NPO 法人足尾に緑を育てる会が主催する足尾銅山での第 24 回春の植樹デーに役職員 48 名が参加しました。これまで新入職員を対象に植樹活動を行ってきましたが、2016 年度から対象を全役職員に広げ希望者を募る方法に変更しました。当日は 700 段以上の階段を登り、落葉樹の苗木を一つ一つ丁寧に植えました。今後も継続して取り組んでいく予定です。

【特徴】

足尾の山の緑の再生を目指して約 2,000 人が参加しています。

056-FY2019-06

地域清掃活動

【原則7】

全役職員を対象とした地域清掃活動を 1 年を通じて継続的に実施しています。また、2018 年度からは各地域の祭り開催後の清掃活動に参加する等、地域とより密接に関わるような清掃活動を行っています。今後も営業エリアや営業店ごとに地域の環境団体などと協力した清掃活動を行なっていきます。

056-FY2019-07

「カッコソウ定期預金」の発売・協議会への寄付・観察会の実施

【原則7】

世界で鳴神山なるかみやま（桐生市・みどり市）だけに生育する大変希少な植物「カッコソウ」の周知と保全活動支援を目的とした「カッコソウ定期預金」を全店舗で販売し、預入残高の 0.010%相当額（196,000 円）を桐生市自然観察の森に事務所を置くカッコソウ協議会へ寄付しました。また、支援活動の一つとして、さらに新入職員の環境学習（CSR 教育）の一環として同協議会の協力のもとみどり市小平地区でのカッコソウ移植作業等、保全活動を実施しました。

【特徴】

カッコソウは絶滅危惧 IA 類（環境省第 4 次レッドリスト）に指定されている植物です。

056-FY2019-08

「きりしん SDGs 宣言」の公表および SDGs の推進

【原則1】【原則2】【原則3】【原則4】【原則5】【原則6】【原則7】

当金庫では、地球全体の課題を解決し持続可能な社会の実現を目指す SDGs に賛同し、令和元年 9 月 2 日に「きりしん SDGs 宣言」を行いました。～みんなで地球を救おう～を合言葉に、当金庫が取り組むべき目標を「地域・連携・環境・ガバナンス・挑戦」の 5 つのカテゴリーに分類し、それぞれの目標達成を目指します。また、2007 年に発足した「CSR 推進委員会」の名称を「SDGs・CSR 委員会」に変更し、現在取り組んでいる CSR 活動と SDGs を統合することにより、当金庫の社会的責任を果たすと同時に地球全体の課題解決に取り組みます。

■ 中央労働金庫

063-FY2019-01

社会的責任投資の取り組み

【原則1】【原則4】【原則5】【原則6】

有価証券の運用において、企業の社会的責任を判断する場合の基本的な考え方である ESG のうち、環境面「E」および社会面「S」を重視し、環境保全や社会配慮などへの取り組みに優れた企業の社債・株式に投資を行っています（2018年度末残高：約490億円）。

【特徴】

社会面（S）は、ディーセント・ワーク（働きがいのある人間らしい仕事）の概念を取り入れ、「人材活用」の分野に着目し、「働く人のための金融機関」としての社会的責任に配慮した資金運用を行っています。

063-FY2019-02

日常業務における職員の意識向上の取り組み

【原則1】【原則4】【原則5】【原則6】【原則7】

- ① 地球温暖化対策のための国民運動「COOL CHOICE」に賛同登録しています。COOL CHOICE ロゴマークを活用し、節電や階段利用の促進など、役職員の省エネ・省資源の取り組みを促しています。
- ② 5月～10月末までの期間において、クールビズを実施し、適切な温度設定に努めています。
- ③ 全職場一斉に定時退勤する「R-DAY」を毎週設定し、管理職を含めて定時退勤（終業後1時間以内に執務室の消灯）ができるよう業務調整・管理を行っています。また、節電対策によるCO₂削減を果たす観点から、通年で20時を目安に業務を終了し、消灯・退館する「ライトダウン運動」を導入しています。なお、実施状況は全職場において確認・点検・報告を徹底し、毎月庫内イントラネットで結果を共有しています。

【特徴】

各種日常業務での取組みを通じて職員の省エネに対する意識を高めています。

063-FY2019-03

グリーン購入の推進・ペーパーレス会議の導入

【原則1】【原則4】【原則6】【原則7】

事業の事務運営に関わる環境負荷を軽減するため、紙のグリーン購入や庫内会議のペーパーレス化に取り組んでいます。

- ① コピー用紙のグリーン購入
庫内で使用する全コピー用紙の切り替えを実施し、全ての事業所において、グリーン購入法適合のリサイクルペーパー（古紙パルプ配合率100%、グリーン購入法総合評価値92、GPN掲載用紙）を使用しています。
- ② FSC 森林認証付き名刺台紙の使用
役職員が使用する名刺台紙の切り替えを実施し、全役職員がFSC森林認証を受けた名刺台紙を使用しています。
- ③ 庫内会議のペーパーレス化

紙の使用量の削減および会議運営の効率化を図る観点から、紙資料による会議運営を見直し、タブレット端末によるペーパーレス会議を導入しています。

④ 書類・コピー用紙等のリサイクルと再生商品の積極利用

各事務所より排出される機密文書等の書類・コピー用紙の処分について、再資源化が可能な溶解・リサイクルシステムを導入しています。

本店ビルにおいては、再資源化によるトイレトペーパー（金庫排出紙の溶解処理を行っている工場生産される再生商品）を購入し、積極的に利用しています。

【特徴】

日常業務で使用する紙のグリーン購入の推進やペーパーレス会議の導入に積極的に取り組むことで、環境や社会問題に対する役職員および利用者の意識向上を図っています。

063-FY2019-04

中長期的な環境負荷軽減・省エネ施策等の措置

【原則1】【原則5】【原則6】【原則7】

営業車として電気自動車を3台導入するほか、改正省エネ法に基づく施策として、店舗への環境配慮型設備の導入を推進しています。

- ① 使用電力をモニタリングする「デマンド監視装置」の設置（機器設置可能拠点）
- ② 太陽熱の影響を受けやすい方角に設置されている店舗を対象とした、営業室フロアガラスへの遮熱フィルムの貼付
- ③ 店舗の移転・建替・大規模改修工事における、高効率の空調設備や照明等の積極的な導入（うち、2019年9月末までに9店舗で太陽光パネルを設置）

なお、これらの営業店等の各拠点の節電実績（対前年比）は、庫内イントラネットで公表し、拠点における節電意識の向上に取り組んでいます。

【特徴】

積極的な省エネルギー施策により、電力需要の大幅削減を目指しています。

■ 盛岡信用金庫

067-FY2019-01

「もしりんカーライフプラン・エコ」の取扱い

【原則2】

もしりんカーライフプラン・エコを2010年9月から取扱開始しました。

電気自動車（燃料電池車を含む）、ハイブリット車、低燃費・低排出ガス車等、自動車重量税、自動車取得税が減免される自家用車の購入に利用できるローン商品です。

【特徴】

従来のマイカーローン（当金庫商品名：カーライフプラン）に比べ低廉な融資保証料の適用により、エコカー普及に寄与するものです。

067-FY2019-02

住宅ローン金利に、自然エネルギー関連設備、環境配慮型住宅設備設置の優遇項目の設定

【原則2】

10年固定期間選択型および、最長35年間固定型金利プランに関し、再生エネルギー関連設備設置（太陽光発電設備、風力発電設備、地下熱利用設備、ペレットストーブ等）、環境配慮型住宅設備設置（エコキュート、エコジョーズ、エネファーム等）の場合、基準金利からそれぞれ0.05%金利優遇を行っています。

【特徴】

金利優遇制度による持家意識の助長、自然エネルギー関連設備の普及により低炭素型社会の形成に取り組むものです。

067-FY2019-03

「再生可能エネルギー事業」を通じた地域活性化への支援

【原則3】

当金庫では、再生可能エネルギーを活用した事業を継続的に推進、支援することで、「地産地消方式」の環境ビジネスの確立に取り組んでいます。

地域内での促進を図るため、自治体等への提案を行い地域内で得たエネルギーを地域内で消費し、エネルギー代として域外へ流出していた資金を域内で循環させていくエネルギー版「地産地消方式」を積極的に促進していきます。これらにより、新たなビジネス、雇用を創造すると共に地域の活性化を目指していきます。

なお、紫波中央駅前の再開発（オガールプロジェクト）において、紫波町役場、商業施設、宿泊施設、住宅への木質バイオマスを利用した地域熱供給事業を行うための、エネルギーステーション建設計画を支援しました。

【特徴】

公共施設や企業、家庭などへ最適な自然エネルギー設備を選定、設備の設置・保守・運営を行い、低炭素社会・循環型社会によるCO₂削減と地域活性化に貢献するものです。

067-FY2019-04

「もしりん共存同栄の森」

【原則4】

森林整備を行うことにより、水源涵養などの森林の公益的機能の向上を目的として、平成23年11月、紫波町と「紫波企業の森づくり」活動の協定を締結しました。

間伐により発生した木材は、木質チップとして再資源化することにより、地域資源の有効活用に繋がります。この活動は、平成24年から15年間にわたり実施し、紫波町における燃料供給態勢確立へ向けての支援事業の一環となります。

令和元年6月15日、第8回「紫波企業の森づくり」森林環境保全活動を実施しました。当金庫役職員とその家族、紫波町役場さま、地権者の皆さま、NPO法人紫波みらい研究所さま、株式会社森の寺子屋塾の皆さまにご参加いただき、丸太・小枝等の運搬作業等を行いました。

また、小学生以下の児童と父兄の参加者には、NPO法人紫波みらい研究所の方々が「自然観察会」を実施しました。

【特徴】

森林の再生に繋がると共に、伐採材をバイオマス利用し、同地温泉施設のチップボイラーの燃料として使用することで、木質材料を利用した供給から消費までのサプライチェーン化が図られるものです。

067-FY2019-05

カーボンオフセット通帳・証書の導入

【原則5】

当金庫の定期性預金証書および普通預金・総合口座通帳等の製造過程において、年間約601kgの二酸化炭素(CO₂)排出量を削減しております。

【特徴】

地産地消型のカーボンオフセット通帳を特徴としています。

067-FY2019-06

「森林再生活動」の取り組み

【原則7】

平成20年より、荒廃裸地化した鉦山跡地を森林に戻そうと「八幡平松尾鉦山跡地」の森林再生活動に取り組んでいます。

令和元年度は、20区画にヤマザクラ等6種類の苗28本を植樹しました。今回の活動により、これまでに285区画1,011本の苗木を植樹しました。

【特徴】

職員の環境意識向上により、森林再生によるCO₂削減、環境保全が期待できます。

067-FY2019-07

夏季および冬季節電対策の取り組み

【原則7】

政府からの「電力供給対策(要請)」および「信用金庫の環境問題への取り組みに関する指針」に基づき、平成22年度より電力使用量削減に取り組んだ結果、平成22年度比27.79%使用料削減となりました。近年、東北地方においても夏場の気温上昇が続いており、電力使用量も増加傾向にあります。今後もクールビズ・ウォームビズの実施、室温設定(夏季28℃、冬季20℃)、照明・OA機器等の節電に取り組んでまいります。

【特徴】

日常業務における実践を通し、環境や社会問題に対する意識向上を図っています。

■ 東海労働金庫

070-FY2019-01

東海ろうきんエコアクション

【原則1】

環境方針に基づいて「全体・部店エコアクション目標」を設定し、年2回開催の環境管理委員会で進捗状況を確認しながら、取組みを継続実施しています。

【特徴】

- ・紙ゴミ排出量・電気使用量の削減
- ・役職員一人ひとりの「エコアクション宣言」
- ・部店ごとの特色のあるエコアクションの展開
- ・営業店で保持していた過剰文具を総務人事部で回収し、希望する他の営業店に提供。

070-FY2019-02

職員の環境意識醸成にむけた取組み

【原則7】

2019年4月に新人職員を対象とした講習会を開催

【特徴】

環境活動を行っているNPO法人代表者を金庫に招き、環境活動に関する講習会を開催。職員の第一歩として能動的に環境について学び考える場としています。

070-FY2019-03

紙の使用量を減らす取組み

【原則3】

紙の使用量を減らす取組み

【特徴】

事務運営に関する環境負荷を軽減するため、紙の使用量を減らす取組みの一環として本部ビル内の会議では電子媒体を使用した会議を導入しています。

070-FY2019-04

日常業務として行う環境活動

【原則7】

日常業務の中に環境活動を取り入れることで職員一人ひとりの向上を目指しています。

【特徴】

- ・管理職も含めた定時出勤・退勤を目指した取組みを、スーパーノー残業デーと名づけて実践しています。職場の点灯・消灯時間を管理することで職員の意識向上と電気使用量の削減を図っています。
- ・5月～10月末までの期間でクールビズを実施しています。

■ 碧海信用金庫

075-FY2019-01

- ・クールビズ、ウォームビズの実施
- ・退庫時のPC、TV等の主電源等OFF
- ・省エネ設備(省エネタイプの空調機、照明器具への更新等)の導入
- ・エレベーター利用の制限(階段利用の促進)
- ・エアコンの温度管理
- ・本部、事務センター内のデマンド管理による空調管理

【原則5】

- ・クールビズ(5～9月)、ウォームビズ(11～3月)の実施
- ・省エネを目的に太陽光発電設備、LED照明を新築店舗等へ導入
- ・エレベーター利用の制限(2段上がり、3段上がりはエレベーター使用しないことの促進)
- ・エアコンの温度管理(夏場は28度、冬場は20度を目安に)
- ・本部建物のデマンド制限(電力ピーク値を前年比よりカットする運用)による空調管理

■ 豊橋信用金庫

076-FY2019-01

環境保全に対応した商品の取扱い

【原則2】

- ・「オール電化住宅ローン」「エコガス住宅ローン」の取扱い
 オール電化住宅等の省エネ住宅の新築や購入、増改築資金に対して3年間、当金庫所定の金利から0.2%の引下げをしています。
- ・「リフォームプラン・エコ」の取扱い
 エコ関連設備の購入・設置資金およびそれに伴うリフォーム資金などに対して、2.80%（保証料はご融資利率に含まれます）で取扱いをしています。
- ・「カーライフプラン・エコ」の取扱い
 エコカー減税対象車の新車購入資金に対して、2.40%（最優遇金利2.00%、保証料はご融資利率に含まれます）で取扱いをしております。
- ・「エコ応援定期預金」の取扱い
 省電力、節電に取り組むお客様を応援するため、①前年の同月と比べて、電気使用量が削減された世帯の方もしくは②太陽光発電システム、エコジョーズ、エコフィール等のエコ関連設備投資を現金10万円以上で行った世帯の方を対象として、スーパー定期1年ものの店頭表示金利に0.10%の上乗せ（1人あたり100万円以内）をしています。
- ・「エコ応援ローン」の取扱い
 太陽光発電システム、エコジョーズ、エコフィール等のエコ関連設備資金（借換にはご利用できません）に対して、当初3年間1.20%・4年目以降は1.50%（保証料はご融資利率に含まれます）で取扱いをしています。

076-FY2019-02

エコキャップ推進運動

【原則3】【原則5】

2011年5月から、環境改善への取組みの一環として、ペットボトルのキャップを回収し、再資源化を促進する「エコキャップ推進運動」を開始しました。

回収したキャップを再資源化することで二酸化炭素の発生が抑制でき、また、再資源化により得た収益金は、発展途上国の子どもたちへのポリオワクチン提供に役立てています。

回収ボックスは、全営業店、本部、お客様相談所など計36ヶ所に設置しています。

回収累計は、2019年8月末現在で1,522万個を超えました。

076-FY2019-03

その他の取組み

【原則3】【原則7】

- ・530（ごみゼロ）運動の実施
 1975年より春と秋の年2回、全役職員が地域の清掃奉仕活動に参加し、環境美化に取り組んでいます。
- ・「朝倉川育水フォーラム活動」への参加
 牛川支店をはじめ近隣4店舗の職員及びとよしんボランティア部の職員が、河川の再生と環境改善に

取り組む活動へ参加しています。

・エコ検定の受験を奨励

環境問題に対する意識向上のため、東京商工会議所が主催する「エコ検定」の受験を奨励し、2019年8月末現在で506名の役職員が合格しています。

076-FY2019-04

環境保全への取組み

【原則5】

環境保全のため地球温暖化対策として「エコアクション15%」の活動を展開しています。電気使用量については、2013年度から2017年度は基準年度（2006年度）比15%削減を目標に、2018年度以降は2030年度に向けた新たな業界数値目標を基に、新たな基準年度（2009年度）比19.00%削減を目標に数値目標を設定し活動しています。

また、CO₂排出削減のため「クールビズ」および「ウォームビズ」を実施しています。車両燃料（ガソリン）、ガス、コピー使用量については、2013年度から8年間で基準年度比15%削減を目標に数値目標を設定し、役職員が一丸となって環境改善に取り組んでいます。

076-FY2019-05

環境配慮型店舗の開設

【原則5】

2010年6月に新城支店、2011年1月に田原支店、2012年1月に問屋町支店、2014年6月に豊川支店、2018年12月に大岩支店を環境配慮型店舗として新築オープンしました。環境面への配慮として、5店舗とも太陽光パネル付LED外灯の設置や一部照明にLEDを採用（豊川支店、大岩支店はロビー・営業室にもLEDを採用）し、田原支店、問屋町支店、豊川支店、大岩支店には、断熱性能が高い複層ガラスや省エネ型照明機器（初期照明補正機能付蛍光灯）、雨水利用システムを採用しています。駐車場には夏場の温度上昇を低減させる浸透性・保水性舗装を採用（豊川支店は採用せず）しています。

また、問屋町支店には、新たにLED内照式ポール看板を設置しました。

076-FY2019-06

電気自動車の導入

【原則5】

本店営業部の営業用車両に「電気自動車（日産：リーフ）」を導入しました。導入した電気自動車は、ガソリンをまったく使用せず電気だけで走行可能（8時間の充電により約200キロ走行）なため、二酸化炭素を排出しない環境にやさしい自動車となっています。

2017年2月に本部の営業用車両にガソリンエンジンで発電し、蓄電された電気で走行する環境にやさしい低燃費モデルの自動車を6台導入しました。

■ 近畿労働金庫

089-FY2019-01

社会貢献プロジェクト・笑顔プラス

【原則1】【原則2】【原則3】【原則4】【原則6】【原則7】

社会貢献預金・(笑顔プラス)は、ご預金を通して、近畿2府4県の地区別団体(10団体)と近畿共通団体(2団体)それぞれの各分野の市民活動を応援するものです。寄付先団体との連携による「社会貢献プロジェクト・笑顔プラス」では、セミナー・シンポジウム、視察・体験ツアー、各種イベントなどを企画し、寄付行為にとどまらず、預金者・ろうきん利用者・労働組合のみなさんと共に、社会貢献・社会活動への参加・参画を呼びかけ、より良い社会づくりに向けた取組みを行っています。

【特徴】

上記の取組みを推進するため、毎年度の「環境改善目標のガイドライン」において『社会貢献預金(笑顔プラス)の推進』を重点目標の一つに掲げるとともに、各営業店の目標を定めています。

089-FY2019-02

環境委員会の設置、環境改善活動の推進

【原則1】【原則7】

2002年6月に「近畿ろうきん環境宣言」を制定し、環境マネジメントマニュアルに基づく取組みを継続的に展開しています。

2003年度から、「KES環境機構」の環境マネジメントシステムの審査を受け、以後今日まで連続してKES認証を取得しています。

また、2003年7月から関西広域機構の「関西エコオフィス宣言」運動に参加、ノー上着・ノーネクタイ勤務の「夏のエコスタイル」を実施するなど、環境課題で社会参加も進めています。

当金庫の環境委員会は、担当役員を環境委員長に毎月1回開催し、環境にかかる年間計画の設定や進捗状況の点検のほか、環境に関する法律や条例の調査、環境に関する苦情対応、職員への環境教育や啓発など、環境マネジメント活動に取り組んでいます。

089-FY2019-03

ペットボトル・キャップのリサイクルへの協力

【原則3】

2006年9月より、淡海フィランソロピーネット(滋賀県社会福祉協議会、滋賀県労働者福祉協議会、滋賀県内企業などで構成された社会貢献推進組織)が進める「ペットボトルのキャップリサイクル事業」のモデル会員として、ペットボトルのキャップ回収に協力しています。当金庫では、滋賀県内の職場はもとより、全職場での取組みとして、広く職員の参加を呼びかけています。

【特徴】

ペットボトル・キャップ回収の試みは、キャップを集めてチップ化し、プラスチック商品に再生することで、

1. 地球環境保護活動の推進(省資源)
2. 障がいのある方の就労支援

の2つを同時に達成していこうとするものです。

089-FY2019-04

「祇園祭ごみゼロ大作戦」「天神祭ごみゼロ大作戦」への協賛とボランティアスタッフとしての職員参加

【原則1】【原則3】【原則5】【原則4】【原則6】【原則7】

当金庫は、環境宣言で謳う環境マネジメント活動の推進の一つでもある「地域の環境改善活動への参加」として位置付けて、「祇園祭ごみゼロ大作戦」「天神祭ごみゼロ大作戦」に協賛し、当実行委員会が発行する「ボランティアスタッフ募集」チラシを各営業店の店頭設置するなどの広報協力、ならびに当金庫職員のボランティアスタッフへの参加を行っています。

【特徴】

「ごみゼロ大作戦」では、『みんなで楽しく、世界に誇れる祭りをつくり上げよう！』と呼びかけ、くり返し何度も洗って使用できる「リユース食器」を露店に導入することで、ごみ減量と散乱ごみの防止をめざしています。大小の「エコステーション」が会場に設置され、リユース食器と資源（ごみ）の分別回収の拠点となっています。ボランティアスタッフの役割としては、主にその回収を任務とし、路上のごみ拾いや、昼間は露天商への食器の持ち込みなども行っています。毎年京都・大阪における伝統的なお祭りにあわせて、市民団体が「ごみゼロで、みんなで楽しく、世界に誇れるまつりをつくりあげよう！」と呼びかけている企画となっています。

089-FY2019-05

近畿ろうきんNPOパートナーシップ制度による「防災・減災」「居場所づくり」に向けた取組み

【原則1】【原則3】【原則5】【原則4】【原則6】【原則7】

近畿ろうきんNPOパートナーシップ制度は、2000年度から11年間、近畿圏内でのボランティア活動を促す企画として実績を積み重ねてきました。2011年度から2015年度は、東日本大震災の未曾有の被害に対して、東北地方を中心とする被災地の復興支援活動のスキームに切り替え、被災地支援・避難先支援の促進に、2016年度・2017年度は、「熊本地震」の被災地および被災者への復興支援活動や、関西での自然災害への備えとなる「防災・減災」（災害に強いまちづくり）に向けたネットワークづくりなどにも取り組んできました。

2018年度は、SDGsの「誰一人取り残さない」といった理念を意識しながら、これまでの取組みを踏まえ、「防災・減災」（災害に強いまちづくり）、及び、障がい者・高齢者・子どもなどの社会的弱者の「居場所づくり」への支援を「近畿ろうきんNPOパートナーシップ制度」がバックヤードとして支え、東北や熊本支援の取組みと同様に、この支援の仕組みを社会に打ち出し、社会的により大きな支援活動にしていくことをめざしています。

【特徴】

近畿圏のNPO支援センターが実施する、「防災・減災」（災害に強いまちづくり）、及び、社会的弱者の「居場所づくり」に向けた、セミナー、シンポジウム、体験プログラムなどの取組みが内容です。近畿2府4県の共通プログラムとして、2018年度は各地区における「居場所づくり活動の体験プログラム」、報告シンポジウムを内容としています。また、各府県では、防災セミナー・教室、災害ネットワークの会合、「居場所づくり」セミナー、つながりあう社会に向けたフォーラムなど、個別プログラムの実施を内容としています。

■ 二本松信用金庫

093-FY2019-01

環境配慮型金融商品の取扱

【原則2】

平成 24 年 11 月より、太陽光発電システムをはじめとする、「再生可能エネルギー事業支援融資」の取扱を開始し、地域企業などの環境配慮への意識向上に資することを目指しております。

また、「ぶなの森」など環境に関連する投資信託も取り扱っています。

093-FY2019-02

クールビズ、ウォームビズの実施

【原則5】

当金庫では平成 19 年度より本部・営業店全店において、クールビズ、ウォームビズを実施し、二酸化炭素排出量の削減等地球温暖化対策に努めております。

093-FY2019-03

エコキャップ収集活動

【原則4】

本部及び全営業店で、職員及びお客様からペットボトルのキャップを回収し、再資源化による環境保全や、発展途上国の子どもたちへのポリオワクチン提供に役立てています。

■ 大阪厚生信用金庫

097-FY2019-01

クールビズ、ウォームビズ、緑のカーテン

【原則1】【原則5】

大阪厚生信用金庫では、「Fun to Share」に参加するとともに、地球温暖化防止対策の一環として、「クールビズ」「ウォームビズ」を実施しています。また電力不足と猛暑に備え、植物の葉で窓などを覆って日光を遮る「緑のカーテン」に、10店舗（2019年度）で取り組んでいます。

(<http://www.co-sei.co.jp/topics/coseiecocoolbiz.html>)

(<http://www.co-sei.co.jp/topics/coseicowarmbiz.html>)

(<http://blog.goo.ne.jp/sheshenina/c/45e795389950f7a45e0253dcd279a8c>)

097-FY2019-02

エコ定期「わかば」、地球温暖化対策支援ローン「こうせいエコ計画」

【原則2】

エコ定期「わかば」の期末の預入残高に応じて、大阪府みどりの基金へ寄付を行い、大阪府の緑化の推進および良好な自然環境の保全に協力しています。

097-FY2019-03

SAKAIエコ・ファイナンスサポーターズ倶楽部

【原則2】【原則3】

大阪厚生信用金庫は、堺市内に支店を置く他の金融機関とともに、「SAKAIエコ・ファイナンスサポーターズ倶楽部」に参加しています。この取組みにおいては、堺市と倶楽部が連携して、市民・事業者のみなさまのニーズに応じた環境配慮型金融商品を提供します。また、参加金融機関は、企業CSR活動の一環として、各店舗で省エネに取り組むほか、環境イベントの開催について堺市と連携協力を行います。さらに、これらの取組みを、店舗ネットワークを活用し市民・事業者のみなさまに情報発信することで、活動への参加・取組みの拡大を図ります。

(<http://sakai-eco-fsclub.jp/kinyu/index.html>)

(<http://sakai-eco-fsclub.jp/lineup.html>)

【特徴】

堺市は、快適な暮らしとまちの賑わいが持続する低炭素都市『クールシティ・堺』の実現のため「エネルギー・イノベーション」「モビリティ・イノベーション」「ライフスタイル・イノベーション」の推進を図っており、倶楽部は市民がこれらのイノベーションに取り組む際の金融面でのサポートを行うものです。

097-FY2019-04

エコ blog

【原則6】

大阪厚生信用金庫は、環境関連の活動として行っている様々な取組みを、「エコ blog」として紹介しています。

(<http://blog.goo.ne.jp/sheshenina>)

097-FY2019-05

生駒山系花屏風活動

【原則7】

大阪府は生駒山系を屏風に見立て、ヤマザクラなどの花木やイロハモミジなどの紅葉の美しい樹木を植樹し、四季折々の彩りをもたせる「生駒山系花屏風構想」を掲げています。

その活動の趣旨に賛同し、当金庫は営業地域である四條畷神社の裏山の竹林で竹を伐採し、植樹を行う活動を平成22年より継続して行っています。

また子供達が環境保全の大切さを学べるイベントが大阪府主催で開催されており、当金庫は環境関連ブースを出展しています。ブースでは上記活動で伐採した竹を利用した工作教室を開催し、100名以上の子供達が集まり、毎回大変盛況となっています。様々なイベントを通して、地域緑化活動を展開しています。

【特徴】

活動には、きずな倶楽部という地域貢献活動を行う組織を創設し、都度、ボランティア職員を募集して行っています。毎年4月には新入庫者が記念植樹を行います。この活動には森林ボランティア組合にも協力を仰ぎ、総勢約100人で竹の伐採、苗木の植樹をしています。様々な取組を通じて、職員が地域緑化活動、環境保全について積極的に学べるよう行っています。

097-FY2019-06

小学生対象のミニバスケットボール大会の開催支援、少年野球教室、教育についての講演会の開催

【原則7】

地域の子供たちの健全な育成、地域スポーツの活性化を願い、平成25年より地域のミニバスケット連盟主催の大会に特別協賛しています。「CO-SEI CUP」と名称し、この大会の出場を目指し、大阪市内の約150チーム、約3,000人の小学生が予選を戦います。この大会は地元のプロバスケットボールチームの後援も得て、地域を盛り上げる取り組みとなっています。また地域の子供たちの心身の健全な育成に貢献できるように、当金庫野球部員による「ふれあい少年野球教室」や、創業95周年記念（平成29年度）には尾木直樹氏・アグネス・チャン氏を招いての講演会も開催し、入場料を「大阪教育ゆめ基金」へ寄付する等の取り組みを行っています。

【特徴】

当日の運営補助について、職員の中よりボランティアを募集し、地域貢献活動を行っています。

097-FY2019-07

CO-SEI チャリティコンサートの実施

【原則3】【原則4】【原則7】

平成21年から、当庫では「CO-SEI チャリティコンサート」を開催しています。こちらは、大阪の緑化の推進や良好な自然環境の保全を通じて、地域社会に貢献することを目的としたものです。当庫の役職員だけでなく、当庫のお取引先や地域の方々にも多数ご来場いただいております。約1,200名様チケット代金と当日の募金は「大阪府みどりの基金」へ全額寄付しています。

097-FY2019-08

ソーラーパネルの設置

【原則5】

当庫では、店舗の屋上にソーラーパネルを設置し、CO₂削減を推進しています。既存店舗だけでなく、新店舗にも積極的にソーラーパネルを導入しており、環境負荷の軽減に努めています。

097-FY2019-09

夏期早帰り運動

【原則5】

節電の取組みとして、当金庫では夏期（7月、8月）の業務終了時間を15～30分繰り上げています。始業時間は変更していません。この取組み実施以前から夏期は定時退庫を励行していましたが、より節電を意識するために、現在では業務終了時間を繰り上げています。この取組みによって7月、8月の2ヶ月間で時間外勤務時間数を約6,000時間減らすことができおり、電力使用量を大幅に削減しています。

097-FY2019-10

SDGs宣言

【原則1】【原則2】【原則3】【原則4】【原則5】【原則6】【原則7】

2019年4月、当金庫はSDGsに取り組むことを宣言しました。当金庫では「地域金融の使命を自覚し、地域社会の繁栄に貢献する」ことを経営理念の一つとして掲げており、これは、国連が提唱する「持続可能な開発目標（SDGs）」と目的を同じくするものだと考えています。地域の発展・成長をより一層進めることにより、地域社会の一員として持続可能な社会の実現に努めてまいります。

■ 長野県労働金庫

098-FY2019-01

環境に配慮した融資商品の取扱い

【原則2】

環境の保護・保全に取り組む方への支援を目的として有担保住宅ローンについて当金庫所定の金利より一定の金利引下げを実施しています。

- ・金庫が指定するエコ住宅に該当する場合
- ・長野県が定める「長野県 CO₂ 固定量認定制度」の要件に該当する住宅の場合

098-FY2019-02

被災者支援の取組み(主には令和元年台風 19 号により被災された方への支援の取組み)

【原則3】

これまで災害等で被災された方を対象に、低金利にてご利用いただける「災害救援ローン」をお取扱いしておりましたが、令和元年台風 19 号の影響により被災された方々への緊急措置として住宅等に被害を受けられた方への「災害救援住宅ローン」の制度を一部見直し、被災者の皆さまがよりご利用しやすい制度としました。

また、従来の被災者支援に加え、今回における長野県広域にわたる甚大な被害に対応するため、平日・休日における営業店・ローンセンターにおける特別相談窓口の設置、ご返済猶予の個別的対応、被災者の方がローンを利用していた場合における金利負担軽減（キャッシュバック）を実施しております。

その他として、長野県に対する義援金の寄贈、各営業店において被災された会員組織への個別的支援、義援金振込に関する系統内・一部系統外の為替手数料の免除、役職員からの緊急カンパ金・募金等の対応他を緊急的に取組みました。

098-FY2019-03

環境に優しい店舗づくり

【原則5】

店舗新築時に太陽光パネルの設置や地中熱の利用を行っている他、全店舗において LED 照明を使用しています。

098-FY2019-04

長野ろうきん「こども基金」を通じた子育て支援の取組み

【原則 1】

当金庫では、子どもの将来が生まれ育った環境によって左右されることのないよう、地域の子どもに関する課題解決に取り組んでいる中間支援組織（NPO 等の非営利団体）と連携し、長野ろうきん「こども基金」を通じて、長野県内の子育て世帯を応援する取組みを支援しています。

具体的には、お客様が当金庫のローン商品をご利用いただいた件数に応じた金額を当金庫が拠出し、地域の支援団体に助成をしています。

■ 新潟信用金庫

102-FY2019-01

マイカーローンでの、環境対策自動車(低公害車)お申し込みで、金利引下げを実施

【原則2】

新潟信用金庫では、環境対策自動車(低公害車)でのマイカーローンのお申し込みで、金利年0.20%の引下げを実施しています。

102-FY2019-02

クールビズ・ウォームビズの実施、およびディスクロージャー誌・通帳・証書等への「植物性大豆油インク」の採用

【原則5】【原則7】

新潟信用金庫では、クールビズ、ウォームビズを実施しています。また、ディスクロージャー誌・通帳・証書等には、順次、環境に配慮した「植物性大豆油インク」を採用しています。また、一部通帳には、紙100%で出来た通帳表紙を使用することで、製造過程において発生する切れ端が新たな資源に生まれ変わる「エコクロス通帳」を採用しています。

■ 高崎信用金庫

103-FY2019-01

たかさきアダプトまち美化活動の取組

【原則3】

平成 26 年 7 月の当金庫創立 100 周年に向けた活動として、地域の環境保全に一層取り組もうと、平成 23 年 5 月より、地元の河川である烏川の清掃活動に継続的に取り組むこととしました。

活動開始にあたり、当金庫では、高崎市が実施する「たかさきアダプトまち美化活動事業」ならびに国土交通省関東地方整備局高崎河川国道事務所が実施する「アダプトプログラム烏川・神流川」において協定を締結し、地域や関係機関と連携した清掃活動を実施することとしました。

活動場所は、高崎市内を流れる烏川の和田橋から聖石橋球場までの河川敷および土手の約 1 キロの範囲です。

実施は年間 3 回で、空き缶やたばこの吸い殻などのゴミ拾いが主な活動内容です。なお、最近の活動実績は以下のとおりです。

第 25 回清掃活動…平成 30 年 10 月 27 日(土) 実施 参加者 45 名

第 26 回清掃活動…平成 30 年 3 月 9 日(土) 実施 参加者 57 名

第 27 回清掃活動…令和 1 年 7 月 27 日(土) 雨天中止

第 28 回清掃活動…令和 1 年 10 月 26 日(土) 実施予定です。

【特徴】

本活動の特徴は、「アダプト」という仕組みを活用しているところです。「アダプト」とは、「養子縁組」という意味で、地域住民が「里親」となり、河川・道路・公園などの公共的スペースの一定区間を「養子」に見立て愛情と責任を持って美化（清掃）活動を行い、これを行政が支援する制度です。

また、地域の皆さまに本活動を知っていただき、地域の環境美化に少しでも繋がればとの思いから、活動時にはお揃いのスタッフジャンパーまたはポロシャツを着用し、活動を PR しています。

103-FY2019-02

マイカーローンのエコカー金利優遇

【原則3】

マイカーローン（たかしんカーライフプラン、たかしん自動車ローン「モア」）をご利用の際、エコカーを購入される方に対して金利を 0.3%引き下げています。

【特徴】

利用者にわかりやすくするため、対象となるエコカーは車種や構造ではなく「エコカー減税対象車」としています。

103-FY2019-03

住宅の省エネ改修のための金利優遇ローン

【原則3】

住宅の省エネ改修に対して金利を優遇したリフォームローン（たかしん目的ローン「エコリフォームプラン」）をご用意しています。

【特徴】

たかしん目的ローン「エコリフォームプラン」（変動金利）については優遇金利を適用した場合、他のたかしん目的ローンより金利が低くなるよう設定しています。

103-FY2019-04

環境保全活動に貢献するカードローン「たかしん エコきゃっする」

【原則3】

新規契約1件につき100円を環境団体に寄付（当金庫負担）することで環境保全に貢献することをコンセプトとした商品です。

【特徴】

平成19年の発売以来、年度単位で新規契約数に応じた金額を（社）群馬県緑化推進委員会の「緑の募金」に寄付、現在平成29年度分まで総額533,900円を寄付しました。

平成30年度分は5,800円を寄付しました。

103-FY2019-05

平成24年8月より群馬県吾妻郡にある株式会社吾妻バイオパワーが運営する「吾妻木質バイオマス発電所」で発電されたグリーン電力を利用して作成した定期積金通帳と現金封筒を導入し、平成26年3月に総合口座通帳、平成29年10月は定期預金通帳についても導入しました。

【原則5】

グリーン電力とは、自然エネルギーや再生可能エネルギーにより発電された電力のことです。木質バイオマス発電もそのひとつで、建設廃木材や公園・街路樹などの剪定作業で発生する剪定枝などをチップ状に砕いた木質チップを燃料として発電しています。樹木は成長過程で光合成により大気からCO₂を吸収するため、木質チップを燃やした時にCO₂を排出しても、全体としてCO₂量は増加しないこととなります。このようにCO₂を吸収する量と排出する量がプラスマイナス・ゼロになることをカーボンニュートラルといい、地球温暖化の防止につながります。

【特徴】

グリーン電力の利用とは、当金庫が発注した通帳および封筒の製造工程や印刷工程で使用する電力量を受注先が計量し、当金庫がその使用電力量に相当するグリーン電力の環境価値を買取することで、結果として環境にやさしい電力を使用して通帳や封筒を製造・印刷したとみなされる仕組みです。

103-FY2019-06

信用金庫業界の環境自主行動計画の推進

【原則7】

平成20年度から24年度までの5年間で、電力、ガソリン、紙の使用量を平成18年度比6%以上減とすることを目標に削減に取り組みました。平成25年度から32年度までの8年間で、電力、ガソリン、紙の使用量を平成18年度比15%以上減とすることを目標に削減に取り組みます。

【特徴】

CO₂排出量削減の取り組み、全営業店の削減目標を設定し、8ヵ年計画の実効性を確保しています。

LED照明の導入

本店営業部をはじめ、28ヶ店舗の営業室にLED照明を導入しており、営業室以外についても順次LED照明への切り替えを行っています。

電気自動車の導入

二酸化炭素を排出しない電気自動車を営業活動用として6台配備しております。

LED照明や電気自動車の導入により、省電力・省エネルギーを推進しています。

103-FY2019-07

「高崎信用金庫 SDGs 宣言」の制定

【原則3】【原則5】【原則7】

当金庫は、地域金融機関として当金庫の取組みについて、SDGs との強い関係性を確認し、今後、さらなる取組みの強化により、SDGs の達成に向けて貢献することを宣言した「高崎信用金庫 SDGs 宣言」を令和元年 8 月に制定いたしました。

【特徴】

当金庫の取組みと SDGs との係わりについて、下記の 4 つの重点項目に区分し、それぞれの取組みを強化して、SDGs の達成に向け貢献してまいります。

① 地域経済の活性化

地域における金融サービスの提供と、地元中小企業の皆さまへの経営支援を通じて、地域経済の活性化に貢献してまいります。



② 地域社会の繁栄

広く地域社会のお役に立つ活動に取り組み、地域の皆さまへの豊かな暮らしのお手伝いをしてまいります。



③ 環境保全

地球にやさしく社会と融和した金融機関を目指し、地球の豊かな環境保全に取り組んでまいります。



④ 人材育成

すべての職員が輝くための組織づくりに向けて、地球や地域のお客さまの課題解決を担う人材の育成や、働き方改革等に取り組んでまいります。



■ 兵庫信用金庫

110-FY2019-01

クールビズ・ウォームビズの実施

【原則1】【原則5】

本部・事務センター・全営業店において、クールビズ・ウォームビズを実施。

【特徴】

クールビズ・ウォームビズの実施にて、省エネルギー推進、職員の意識向上に努めています。

110-FY2019-02

カーボンオフセット通帳の使用

【原則1】【原則5】

環境に配慮したカーボンオフセット通帳を使用し、CO₂排出の削減に寄与しています。

【特徴】

カーボンオフセット通帳の採用により、CO₂削減に取り組んでいます。

110-FY2019-03

LED照明の設置

【原則1】【原則5】

新長田支店・滝の茶屋支店の店舗照明と本部ビル全てをLED照明に切り替えしました

【特徴】

省エネルギー化に積極的に取り組んでいます。

110-FY2019-04

社会貢献活動

【原則4】【原則7】

- ・「姫路城清掃活動」「須磨海岸クリーン作戦」に参加（其々、職員とその家族約100名）し、地域の清掃ボランティア活動に協力しています。
- ・全店に「緑の募金箱」を設置し、年2回、兵庫県緑化推進協会に募金を振込しています。

【特徴】

地域社会への貢献活動として継続して実施しています。

■ 城南信用金庫

112-FY2019-01

「脱原発」に向けた積極的な取組み

【原則1】

テレビ番組、ラジオ番組への出演や、各種講演会やシンポジウムへの参加、書籍(「信用金庫の力」岩波ブックレット、「城南信用金庫の『脱原発』宣言」クレヨンハウスブックレット、「原発ゼロで日本経済は再生する」角川学芸出版、「幸せになる金融」神奈川新聞社、「世界の常識は日本の非常識自然エネは儲かる！」講談社+α新書)の発刊、「城南総合研究所調査報告書」の発行等を通じて、原発の危険性や、日本の未来や子供たちの将来のためにも即刻「原発ゼロ」にすべきであることを広く訴えた。また、「原発ゼロ・自然エネルギー推進連盟」に協賛している。

【特徴】

「原発に頼らない安心できる社会」の実現をめざします。

112-FY2019-02

LED照明を導入

【原則1】

営業店に順次 LED 照明を導入（累計 85 店舗に導入）。

【特徴】

LED 照明の導入により、省電力、省エネルギーを推進します。

112-FY2019-03

営業店の屋上にソーラーパネルを設置して発電を実施

【原則1】

本店、事務センター、羽田支店、奥沢支店、中野支店、溝ノ口支店、生田支店、綱島支店、鶴見支店、の屋上にソーラーパネルを設置し発電を実施。

【特徴】

ソーラーパネルの発電により、省電力、省エネルギーを推進します。

112-FY2019-04

「節電プレミアムローン」の取扱い

【原則2】

ソーラーパネルの設置費用、蓄電池の設備費用、自家用発電機の設置費用等、省電力に関連する設備投資のためのローンに対して、当初1年間は無利息、2年目以降は1.0%（固定金利）の利率を適用。

対象者：個人

金額：50万円以上300万円以内

期間：3年以上8年以内

【特徴】

地域のお客様に、省電力・省エネルギーに向けた取組みを奨励。

112-FY2019-05

「節電プレミアム預金」の取扱い

【原則2】

ソーラーパネルの設置、自家用発電機の購入、蓄電池の購入、LED 照明への切り替え等、省電力に関連する 10 万円以上の設備投資を行ったお客様に対し、定期預金金利 年 1.0%を適用。

対象者：個人
預入金額：1 世帯につき 100 万円まで
期間：1 年

【特徴】

地域のお客様に、省電力・省エネルギーに向けた取組みを奨励。

112-FY2019-06

節電・新エネルギー推進ビジネスローン「エナジーシフト」の取扱い

【原則3】

ソーラーパネルの設置費用、蓄電池の設備費用、自家用発電機の設置費用等、省電力に関連する設備投資のための中小企業向けローンを取扱開始。「ISO 14001」または「エコアクション 21」の認証を取得している場合 0.2%金利優遇。

対象者：法人または個人事業者
期間：15 年以内

【特徴】

地域のお客様に、省電力・省エネルギーに向けた取組みを奨励。

112-FY2019-07

最新環境技術を駆使した省エネ店舗の設置

【原則5】

自然エネルギーの活用によりエネルギー使用量の削減をめざした環境に配慮した負荷の少ない設計による新店舗を設置している（羽田支店、生田支店、綱島支店、鶴見支店、奥沢支店）。

【特徴】

環境負荷の少ない建築技術により省電力、省エネルギーを推進する。

112-FY2019-08

「RE100」に加盟

【原則1】【原則4】

事業活動で使用する電力を 100%再生可能エネルギーで調達することを目標に掲げる企業が参加する国際イニシアティブ「RE100」に国内金融機関で初めて加盟し、バイオマス発電による電力への切り替え、J クレジットの購入による CO₂ のオフセットにより、2019 年 7 月に国内企業で初めてその目標を達成した。

【特徴】

使用電力を 100%再生可能エネルギーにするとともに金融業界の再生可能エネルギーに対する意識向上を図る。

■ 愛媛信用金庫

114-FY2019-01

環境方針の制定および環境マネジメントシステム「ISO 14001 認証」の取得

【原則1】

愛媛信用金庫は、平成 20 年 12 月、役職員の環境保全に対する行動の指針となる環境方針を制定し、役職員全員で環境保全のための活動に取り組んでいます。平成 21 年 3 月には、愛媛県内に本店を置く金融機関として初めて環境マネジメントシステム・ISO 14001 認証を取得しました。

【特徴】

愛媛信用金庫の環境方針や環境自主行動計画に基づき、全役職員が当事者意識を持って各施策に取り組んでいます。各部店における取組み状況については、監査部による内部監査時に検証し、必要に応じて指導を行うなど、実効性の向上に努めています。

114-FY2019-02

環境配慮型商品の取扱い

【原則2】

地域の皆さまの環境保全活動を支援するため、環境配慮型商品を取り扱っています。一部の商品は、インターネットでも申し込むことができます。(http://www.shinkin.co.jp/ehime/eco/index.html)

- ・カーライフローン・エコ
エコカー（新車）購入資金、パーツ・オプションの購入・取付費用などにご利用いただける商品です。
- ・エコリフォームローン
太陽光発電システム等エコ関連設備の購入費用および設置費用、修繕費用などにご利用いただける商品です。
- ・あいしんエコサポートローン
法人および個人事業主の皆さまに、低公害車、太陽光発電システムなどの購入費用や設置にかかる費用、公害防止施設・環境保全施設等の建設資金などとしてご利用いただける商品です。また、環境保全の取組みについて第三者から認定・認証を受けているお客様の運転資金や設備資金にもご利用いただけます。

【特徴】

環境保全に資するための資金に特化した低金利の商品を開発することで、地域におけるエコ意識の高揚と太陽光発電システムの普及に努めています。

114-FY2019-03

3S徹底活動

【原則3】

役職員全員で 3S を推進し、ムリ・ムラ・ムダを省くことで働きやすい職場環境づくりや業務の効率化に努めています。活動を通じて集まった余剰品（使用可能な事務用品など）は、NPO 法人へ寄贈し、海外への支援物資として活用いただくなど、使用資源や廃棄物の削減に努めています。

また、経営改善支援の一環として、地域の中小企業等に対して「3S（整理・整頓・清掃）診断」を行い、経営者および従業員が自ら「ムダ・ムラ・ムリ」の削減を推進する職場づくりを支援しています。具体的には、①診断実施、②診断報告レポート（30 頁程度）を報告し、全従業員参加のもと報告会を開催、③要望により継続的活動のための個別支援（実行状況の点検を含む）を行っています。

【特徴】

3Sは、企業にとって基本的な活動であり、専門知識や技術も必要ないことから、どのような企業でも取り入れることができます。全従業員による3Sへの取組みを推進することで、エネルギー消費や廃棄物の削減に繋がり、経営力の強化にも繋がります。

114-FY2019-04

環境にやさしい店舗づくり

【原則5】

店舗建物を新築する際には、環境に配慮し、太陽光発電システム設備やLED照明、温度保持効果の高い複層ガラスなどを導入しています。事務機器等についても、環境配慮型の機器へ順次入替を行っています。そのほか、クールビズやウォームビズの実施、Webシステムの活用によるペーパーレスの推進や、役職員に対する省エネ意識の啓蒙（全店舗のコピー機器周辺に「両面コピー」「集約コピー」等の方法を紹介したポスターを掲示。電灯スイッチやエレベーター開閉ボタンの近くへ節電協力のプレートを設置。）などを行っています。

【特徴】

環境負荷軽減に寄与する各種設備等の導入により、CO₂排出量の削減や省エネに努めています。また、役職員一人ひとりが公私を問わず省資源・省エネルギーに長期的に取り組むこととしています。

■ 鶴岡信用金庫

120-FY2019-01

環境に優しい金融商品の取扱い

【原則2】

- ・「ルート 2000 マイカーローン」、「SD カーローン」のエコカーに係る金利優遇を行っています。
- ・ふれあっとリフォームローンの地球温暖化対策リフォーム工事資金に対する金利優遇を行っています。

【特徴】

企業の社会的責任に対して、本業として環境問題の解決に貢献することを目的に取り組んでいます。

120-FY2019-02

地域における環境保全活動の実施

【原則4】

- ・2005年から羽黒山（出羽三山）参道、境内の清掃ボランティア活動を行っています。
- ・山形県ふるさとの川アダプト事業へ参画し、毎年内川の清掃活動を行っています。
- ・2010年から山形県、鶴岡市、山形銀行と協同で「やまがた絆の森づくり活動」を実施し、森林の保全活動に取り組んでいます。

【特徴】

地域金融機関として、庄内地域の環境保全に対する取り組みについては全職員一丸となって取り組んでいます。

120-FY2019-03

環境に配慮した業務プロセスの取組み

【原則5】

- ・2010年度よりカーボンオフセット通帳を活用しています。
- ・業務車両として積極的にハイブリッドカーを導入しています。
- ・2011年11月に新築した若竹町支店では、太陽光発電設備の設置とLED照明の使用等、エコを意識した店舗となっています。

【特徴】

節電行動への積極的な取組みと共にCO₂排出削減に対する取組みも実施しています。

120-FY2019-04

鶴岡信用金庫の環境方針の制定

【原則6】

自然環境の維持及び改善に努めることは、地域金融機関としての社会的責任であり、環境への負荷の軽減に努力する事は、資源を消費する企業としての責務であると認識し、当金庫の環境問題に対する取組みを内外に明示しています。

【特徴】

当金庫のホームページに掲載し、取組みを広くPRしています。

■ 城北信用金庫

121-FY2019-01

CO₂排出量抑制への取り組み

【原則1】

当金庫は、3ヵ年計画「環境マネジメント 2019」を策定し、計画的なCO₂排出量の抑制に取り組んでいます。全拠点へのLED照明導入、低燃費な自動車・バイクへの更新、各業務におけるペーパーレス化等を通じて、今後も継続して電気・水道・ガソリン・コピー用紙の各使用量の節減に取り組んで参ります。

【特徴】

子会社を含む城北信用金庫グループ全体で数値目標を設定し、グループ内で連携することで目標を達成すべく取り組んでいます。

121-FY2019-02

環境に配慮した金融商品の提案

【原則2】

環境問題に配慮した下記の金融商品を取り扱い、お客様にご提案しています。

- ・「環境保全設備支援ローン」
- ・「城北住宅ローン・エコ」
- ・「城北カーライフプラン・エコ」
- ・「自然エネルギー活用ローン」

【特徴】

地域企業の環境へ配慮した設備の導入や、家庭におけるエコ住宅及びエコカーの取得を支援し、持続可能な社会の形成に寄与することを目的としています。

121-FY2019-03

埼玉県川口市「エコライフDAY」への参加

【原則3】

令和元年6月9日（日）、当金庫の川口市内5店舗は、川口市が取り組んでいる地球温暖化防止活動「エコライフ DAY2019」に参加しました。

当日は、職員とその家族141名がCO₂排出量削減に配慮した一日を過ごし、合計で145kg-CO₂を削減することができました。

【特徴】

地域が取り組んでいる環境保全活動に、職員が積極的に参加することで、環境保全への関心を広げていくことを目的に取り組んでいます。

121-FY2019-04

家族ぐるみによる河川敷清掃ボランティア活動

【原則7】

令和元年9月29日（日）、当金庫の職員ならびにその家族58名が、北区赤羽周辺の荒川河川敷にて清掃ボランティア活動を行いました。

「ボーイスカウト東京連盟 城北地区 北第 11 団」さまと NPO 法人「荒川クリーンエイド・フォーラム」さまが実施する河川敷の清掃活動に参加したものです。

【特徴】

役職員が家族ぐるみでボランティア活動に取り組むことで、環境保全への関心を広げていくことを目的に取り組んでいます。

121-FY2019-05

eco 検定の受験奨励

【原則7】

当金庫では、「環境社会検定試験（eco 検定）」の受験を役職員に奨励しています。

令和元年 3 月末時点で 189 名の合格者がおり、今後も eco 検定合格者＝”エコピープル”の増加に取り組んで参ります。

【特徴】

環境についての幅広い知識を業務に活用し、環境活動の推進に役立てることを目的に取り組んでいます。

■ 静岡県労働金庫

125-FY2019-01

「静岡ろうきんSDGs実践方針」の策定

【原則1】【原則2】【原則3】【原則4】【原則5】【原則6】【原則7】

〈ろうきん〉は、1950年の誕生以来70年近くにわたり、一貫して勤労者に寄り添い、その生活を金融面からサポートしてきました。2015年度には、2025年までの10年間で〈ろうきん〉がめざす姿を描いた「ろうきんビジョン」を策定し、高金利カードローン借換えによる勤労者の可処分所得向上や、非正規雇用の勤労者への融資、行政と連携した失業者への就労支援、金融経済教育の推進など、勤労者の生活向上、就労・社会参加、経済的自立のための支援に取り組んできました。

SDGsのスローガンである「誰一人取り残さない」や、全ての人々が必要な金融サービスにアクセスでき利用できる状況をめざす、いわゆる「金融包摂」の考え方は、〈ろうきん〉の設立経過や理念、ビジョンと合致するものです。

このような考えのもとで進める金庫の事業や社会貢献活動は、SDGsのめざす「持続可能な社会」につながるとの認識にたち、実践方針を策定し、実践方針に基づいた取組みを進めています。

【静岡ろうきん SDGs 実践方針】：<https://shizuoka.rokin.or.jp/shiraberu/housin/sdgs.html>

125-FY2019-02

「人々が支え合う共生社会の実現」に向けた金融商品・サービスの提供

【原則2】

静岡県労働金庫は、協同組織の福祉金融機関として「人々が支え合い、喜びをもって共生できる社会の実現」に向けた金融商品・サービスの開発・提供をすすめています。

□ 環境に配慮した取組みを推進する商品・サービス

● 住宅ローンエコ応援割引

太陽光発電設備を導入した住宅など、環境に配慮した住宅を新築・購入等される方の住宅ローン（変動金利型）を対象に、金利割引を行っています。

● 無担保住宅ローン『役立宣言』

静岡県労働金庫は太陽光発電システムをはじめとした新エネルギー機器等の導入拡大に向け、それらの設置費用に利用いただける低利で安心な無担保ローンを提供しています。

□ NPO 事業サポートローン

保健、医療、福祉の増進などに資する活動を行い、地域の福祉向上に大きな役割を果たしているNPO法人への金融支援策として「NPO 事業サポートローン」を提供しています。

□ 福祉ローン

育児休業中の生活費や育児に使用する自家用車・育児用品購入費用など、育児にかかる費用、入院費等の医療費、介護にかかる費用、災害復旧に必要な費用など、福祉にかかわる費用を対象とした「福祉ローン」を提供しています。また、「子育て優待カード」の提示で、「福祉ローン（子育て応援ローン）」の金利割引を行っています。

125-FY2019-03

地域社会への貢献活動

【原則3】

静岡県労働金庫では、地域社会への貢献活動としてさまざまな取組みを行っています。

□ 大規模災害発生時の営業店駐車場の無償貸与・防災機器用品の設置

静岡県、特定非営利活動法人静岡県ボランティア協会および社会福祉法人静岡県社会福祉協議会との間で覚書を締結し、巨大地震の災害発生時に、静岡県災害ボランティア本部・情報センターのボランティア活動等の拠点として、営業店の駐車場の土地の一部を無償貸与します。また、各営業店に防災機器用品を設置しているほか、4 店舗（富士支店、清水支店、磐田支店、静岡中央支店）の受水槽には、リザーバタンク機能を取り付け、断水に備えています。

□ 福祉車両・車いすの寄贈

1998 年より、毎年県下の福祉施設等へ車いす、福祉車両を寄贈しています。2018 年度は県東部の障害福祉サービス事業を行う社会福祉法人へ、2019 年度は県中部の障がい福祉サービス事業を行う NPO 法人へ車いす移動車の寄贈を予定しており、多くの利用者の送迎等に役立てられています。これまでの寄贈台数は車いす 560 台、福祉車両 29 台となります。

□ 社会貢献活動等への協賛・協力

・福祉活動への募金を呼びかける、日本テレビ系列のチャリティ番組「24 時間テレビ」へ協賛するとともに、募金受付（振込みによる募金は振込手数料免除）を行いました。

□ NPO の支援

社会がかかえている生活・福祉などの課題解決に向けて地域で主体的に活動している NPO への支援活動に取り組んでいます。

・特定非営利活動法人静岡県ボランティア協会への活動支援として、「しずおか福祉バザール」に〈ろうきん〉として 2018 年度は 574 点のバザー品を提供しました。また、同協会が主催する「静岡ボランティア研究集会」へ広告協賛を行いました。

・静岡県内で子どもたちの健全育成をはかる活動を行っている NPO 等団体を支援するため、2011 年度より寄付を行っています。2018 年度は「ふじのくに未来財団」に対し、子育て支援活動を積極的に行っている NPO への助成資金を寄付しました。「ふじのくに未来財団」発足時からの寄付金の累計は、約 260 万円となりました。

・静岡県内で障がいがある人の自立支援事業に取り組んでいる「認定 NPO 法人オールしずおかベストコミュニティ」に 2017 年度から寄付を行っています。

125-FY2019-04

環境への取組み

【原則5】【原則6】【原則7】

静岡県労働金庫は、地球規模で深刻化し世界的な問題となっている環境問題に対し、環境負荷を低減する活動や職員への環境教育などをすすめています。

□ 省エネルギー・省資源化の促進

電気・ガス・事務用紙の削減に向けて数値を集計管理し、役職員が省エネルギー・省資源化の促進に努めています。

□ 「環境保護に役立宣言」制度

対象融資のご利用件数に応じて、環境保護団体「静岡県地球温暖化防止活動推進センター」へ 2009 年度から寄付し、これまでの寄付金の累計は約 884 万円となりました。寄付金は同センターが行う静岡県内の地球温暖化対策事業への支援や県内小学校における環境教育事業「アースキッズ・チャレンジ」の活動費用などに活用されています。

■ 中ノ郷信用組合

126-FY2019-01

エコアクション21による環境配慮商品・サービスの提供

【原則1】【原則2】

当組合は、エコアクション 21 の環境配慮商品サービスの提供として環境にやさしい企業を応援するため、なかのごうエコアクションローン、個人のお客様には、なかのごうエコリフォームローン、エコ電化ローン、エコカーローンを取扱っております。

【特徴】

環境に配慮した企業や個人をサポートする組合員を対象とした特別融資です。

126-FY2019-02

エコアクション21認証取得サポート事業を推進

【原則3】

取引先事業所を対象にエコアクション 21 認証・取得をサポートするために支援講座を開設し、環境への取組を取引先事業所へも推進して環境配慮商品サービスを提供しています。

【特徴】

取引先事業所へエコアクション 21 を取得していただき、エコアクションローンによる事業資金を提供します。

126-FY2019-03

エコアクション21認証・登録

【原則7】

環境への取組を効果的に行うために、環境マネジメントシステム（エコアクション 21）を構築し環境関連法規等を遵守し、環境方針に沿って二酸化炭素排出量削減、廃棄物排出量削減、総排水量削減、グリーン購入の促進、環境配慮商品サービスの提供、環境教育を全職員へ行い環境保全の意識を高めています。年間の活動結果を環境活動レポートにより、ホームページ、店頭、EA21 事務局へ公開しています。

【特徴】

エコアクション 21 認証・登録により社会的責任を高め、環境経営のための仕組みを構築、運用、維持し、全組織、全役職員に環境保全の意識を高めています。

■ のと共栄信用金庫

127-FY2019-01

森づくり活動

【原則4】【原則5】【原則7】

2008年5月1日石川県と協定書を締結し、中能登町にある石動山の県有林を借り受け、毎年春と秋の2回人工林の整備（間伐、枝打ち）、下刈り、植林、林道整備や自然体験学習などを行っています。

これまでの12年間で24回森づくり活動を行い、その活動結果は、石川県が2008年に創設した「森林整備活動CO₂吸収量認証制度」で、活動開始から現在までに吸収されると考えられる二酸化炭素量は237.0トン-CO₂と認証を受けました。毎回、職員をはじめ家族、地元住民などがボランティアとして集まり活動しています。

【特徴】

森づくりファンド“やまもり”を創設し、賛同いただいたお客様の定期預金の利息の一部を活動原資の一部に活用しています。

127-FY2019-02

児童環境学習活動

【原則4】【原則5】

2009年度に七尾市教育委員会、中能登町教育委員会と締結した「環境学習講座等協定調印」に基づき、七尾・中能登町の小学生に環境学習を行っております。当活動の主旨としましては、

- ① CSR（企業の社会的責任）の一環
- ② 当金庫は「CSR」を経営の基本方針に掲げ、最近の社会問題である少子化問題、環境問題を二大テーマとして取り組んでいる
- ③ 環境学習の意義
子供たちが環境学習を通じて、環境の重要性に対する認識を高め、環境保全活動に取り組むことにより、自然を愛し、人間の連帯感を醸成し、他人を思いやる心を育むことによって、将来の地域社会の担い手となる人間性豊かな教育の支援を行うため

としております。

【特徴】

毎年、5月頃にキックオフミーティングを行い、七尾市・中能登町の各小学校の児童（6年生）が今年度の環境活動をスタートさせるのにあたり、活動テーマや取組み概要の発表等を行います。この後、各学校が活動を行い11月頃に取組の様子をまとめ、発表しています。

127-FY2019-03

のとじまの松林再生活動

【原則4】【原則5】【原則7】

当金庫の本店所在地である七尾市能登島地区では、近年、薪を使わなくなったことなどにより松林の手入れが行き届かなくなったことや、松くい虫や台風の被害等により松林が衰退、荒廃し、マツタケをはじめとしたキノコの発生が激減しています。こうしたなか、松林再生活動をつうじて里山づくりを推進し自然豊かな能登の原風景の再生を目指すものです。

【特徴】

作業内容として

- (1) 比較的緩やかな尾根筋を中心に、既存のマツの生息環境を改善するため、除伐、刈払いや堆積している腐植層の除去を行う。腐植層は、現況では約 5～10cm 堆積しており、その除去については、尾根筋両側の 10～20m 程度を除去区域とする。
- (2) 植樹したマツに巻きついたツタや草を取り除き、日当たりを確保する。
- (3) 2020 年度以降も、活動区域を広げながら実施する。

としております。

■ 四国労働金庫

131-FY2019-01

金融エコ商品の販売

【原則2】

ご自宅のエコ・耐震化（太陽光発電設置、オール電化、バリアフリー化、耐震補強など）のための「ナッ得・エコ住宅ローン（無担保）」や、環境配慮型住宅に金利引下げ項目が適用される「有担保住宅ローン」等の金融エコ商品を通じて、環境負荷の低減に努めています。

131-FY2019-02

労働金庫の基本理念と一致できる活動を行っている団体に対し、資金助成を行うことによって、社会貢献活動の発展に期することを目的とする活動。

【原則3】

1. NPO 法人・ボランティア団体の行う福祉活動や環境問題等の、非営利の公共性の高い活動に対する助成金制度の実施（初年度 2002 年度）。年一回、助成金申請の募集を行い、学識者を含めた委員の方々による審査・選定を行い決定しています。2019 年度までの助成金総額は、477 団体・7,926 万円となっています。（1 団体、最高 20 万円、過去に助成実績のある団体は最高 10 万円）
2. ピンクリボン運動
「女性が健康で長く働くことができる社会づくり」に貢献するために、乳がんの早期診断・早期発見・早期治療の大切さを訴える「ピンクリボン運動」への支援に取り組んでいます。具体的には、当庫 ATM 利用 1 件（他行カード含）につき 1 円を「日本対がん協会」のグループ組織に寄付する活動です。2018 年度の寄附金総額は、886,344 円となっています。
3. 四国ろうきん 1 万人笑顔プロジェクト
2018 年度より取組を開始した「四国ろうきん 1 万人笑顔プロジェクト」は、お客様にご利用いただいたローン 1 件につき 100 円をろうきんが拠出し、「教育関係」、「子育て支援関係」、「障がい者雇用関係」、「環境保護関係」の中からお客様に選択いただき寄付をする取組です。この取組は 4 月 1 日から翌年 3 月 31 日までを取組期間としており、2018 年度は各関係団体へ総額 638,200 円を寄付しました。

131-FY2019-03

ろうきん 5R 運動(Rokin の Refuse,Reduce,Reuse,Recycle)

【原則5】

企業の社会的責任（CSR）を果たしていく課題として、地球温暖化防止に向けた取組として、冷暖房の適正温度設定等によるクールビズ・ウォームビズを実施しています。また、再生紙やインクリボンの再利用等の資源の有効利用にも努めています。

【特徴】

クールビズ期間：5 月 1 日から 10 月末までの 6 か月間を実施期間としています。

■ 中国労働金庫

134-FY2019-01

ローン商品の金利引下げによる環境保全に配慮した消費行動の促進

【原則2】

エコカーや環境に配慮した住宅購入等の場合について融資金利の引下げを実施しています。

134-FY2019-02

NPOの活動支援

【原則2】

NPO への助成金および NPO 寄付システム（口座振替による利用者からの寄付）による寄付金を通じて環境保全に取り組む NPO を支援しています。

■ 尼崎信用金庫

142-FY2019-01

あましんグリーンプレミアム

【原則3】【原則4】

営業エリア内の法人・個人・団体を対象に環境改善に寄与する技術、製品・工法、取組み及びアイデアについて表彰を行う制度です。

【部門・表彰内容】

- ・環境事業部門
自社で開発した技術や製品・工法などにより環境改善に大きく寄与する一定の効果をあげている事業者を表彰します
- ・環境活動部門
組織として（個人の場合は個人として）環境問題を意識した活動等を通じて、一定以上の効果をあげている先を表彰します
- ・環境アイデア部門
地域住民から幅広く、環境問題改善に向けたアイデアを募集し、低コストかつ迅速に実現可能であり効果的なアイデアを表彰します

【特徴】

地域の皆様が行っている環境への取組みにスポットをあて、当金庫独自の表彰を行い積極的に発信していくことを通じて、環境文化の創造に繋げていくことを目的としています。

142-FY2019-02

あまちゃん・しんちゃんプロジェクト

【原則3】【原則4】

平成23年の創業90周年記念事業として開始した営業店による地域貢献活動です。
各営業店で地域のニーズ（地域の課題）の掘り起こしを行い、環境・安全・文化・教育といった幅広い分野で、地域の一員として地域の活性化に取り組んでいます。

<営業店の主な活動内容>

- ・教育・学童交通安全プロジェクト
- ・防犯安全コミュニケーションプロジェクト
- ・緑化・環境保全プロジェクト
- ・認知症サポータープロジェクト 等

【特徴】

各営業店がそれぞれの地域や自治会などとコミュニケーションを図り、ニーズ（地域の課題）に合った活動を展開し、地域との絆を深めていきます。

142-FY2019-03

あましん緑のプロジェクト

【原則3】【原則4】

兵庫県と尼崎市が策定した「尼崎 21 世紀の森構想」に地元企業として参画し、地域の環境保全活動の主体的な役割を担うことを目指した活動

- ・平成 22 年 7 月 7 日 兵庫県と「尼崎 21 世紀の森づくりの推進に関する協定」を締結
- ・本店敷地内に育苗施設を設置し、苗木の里親企業第 1 号として苗木を育成
- ・尼崎市内の本支店に尼崎 21 世紀の森づくりを紹介する「苗木の里親コーナー」を設置
- ・職員を「苗木の里親案内人」として養成（苗木の里親の受付・苗木の提供など行う）
- ・定額積立定期預金「どんぐりの木」の発売
- ・あましん植樹祭の開催 等

【特徴】

兵庫県、尼崎市、地域住民と連携し当金庫が主体的に地域の環境保全活動を推進しています。

■ 北海道労働金庫

149-FY2019-01

省エネルギーの取組み

【原則1】【原則5】

地球温暖化防止に向け、夏季の「ビジネス軽装（ECO スタイル）」や「冷房の適正温度設定」等を実施するとともに、ATM コーナー・営業店内照明のLED 化を順次行い、省エネルギーに取り組んでいます。また、当金庫が使用する事務用品や機器の購入に際しては、環境に配慮した製品を優先して選択するグリーン購入を実践し、「FSC ミックス認証紙」を使用した冊子の作成などを推進しています。

【特徴】

省エネルギー施策により節電、地球温暖化防止に取り組んでいます。

149-FY2019-02

金融エコ商品の取扱い

【原則2】

環境に配慮した金融商品を提供することにより、環境保全に関心の高いお客様をお手伝いし、環境負荷の軽減に努めています。

電気自動車等の環境に優しい車や福祉車両の購入資金を対象とし、当金庫の一般の自動車ローンよりも金利を引き下げた「轟エコ」の提供や、省エネルギー化・バリアフリー化・耐震化工事等を対象とした低金利の「エコリフォームローン」の取扱いもしています。

【特徴】

金融エコ商品の提供により地球温暖化対策に取り組んでいます。

149-FY2019-03

社会貢献事業

【原則3】

1. お客様と共に行う取組み

(1) ATM 利用による支援活動

当金庫 ATM の利用（入金・支払のみ）につき 1 円/件を当金庫が拠出して、夕張市の「働く人・生活する人が住みやすい環境へのコンパクトシティ拠点施設整備事業」へ寄付し、地方創生の観点から支援を行っています。

(2) ろうきんつなぐプロジェクト

当金庫の預金・各種サービス・ローンの利用につき 100 円/件を当金庫が拠出して、地域に貢献する活動を行う団体に寄付しています。

2. コープさっぽろとの連携による社会貢献活動の取組み

協同組合間連携の一環として、当金庫で作成したお子様口座件数（18 歳以下の普通預金口座）に応じて、100 円/件を当金庫が「コープ子育て支援基金」に寄付し、基金内の取組みである「えほんがトドック」利用組合員の方には、絵本をさらに 1 冊プレゼントする取組を行っています。併せて、預金口座からの自動振替（手数料無料）により、同基金への寄付を行う自動寄付制度を提供しています。

3. NPO をサポートする取組み

(1) NPO 自動寄付制度

預金口座からの自動振替により、預金者の方が NPO を支援する仕組みを提供しています。

(2) NPO 振込手数料免除制度

NPO 団体が受取る寄付金・会費・売上代金などの振込手数料を、当金庫本支店間に限り、年間 100 件まで免除しています。

(3) NPO 事業サポートローン

NPO 法人の事業に係る運転資金や設備資金をご融資し、資金面で NPO 活動を支援するものです。「融資」という金融機関本来の業務を通じて、福祉金融機関の役割発揮に努めています。

(4) 日本政策金融公庫との連携

協調融資商品「TSUNAGU」を取扱っております。

5. その他の社会貢献事業

(1) 継続助成事業

芸術や文化活動、および市民活動支援を行っている団体へ継続助成（毎年助成を予定）を行っています。

(2) 社会貢献助成制度

地域の公益の担い手として活躍する北海道内に所在の NPO 団体やボランティア団体を応援するために「社会貢献助成制度」を創設しています。

(3) さぼーとほっと基金（札幌市民まちづくり活動促進基金）への寄付

ボランティア団体・NPO 団体などが行う、札幌のまちづくり活動を支えるために、2008 年度から同基金に毎年寄付を行っています。

(4) 環境債や社会貢献債の購入

ESG や持続可能な開発目標（SDGs）などの分野への理解を深めるために、環境債（グリーンボンド）購入による発行企業 HP での公表や持続可能な開発目標（SDGs）を展開している企業の社債の購入を行い、この分野の動向について労金業態全体と情報連携を行っています。

【特徴】

これまでの活動の成果の一部を人にやさしい社会づくりのために活用しようと、会員の皆様の理解を得ながら、環境保護に取り組む NPO 団体やボランティア団体等を対象に、助成事業や金融機能を通じた支援活動を実施しています。

149-FY2019-04

北海道生活協同組合連合会との「緊急災害対策等の相互連携に係る基本協定」の締結に基づく連携

【原則3】

当金庫と北海道生活協同組合連合会は、大規模自然災害に備え、緊急災害対策と復旧・復興への取り組みを相互に協力して進め、地域や組合員の暮らしを守ることを目指し、協定を締結しています。なお、同連合会傘下の会員生協より、災害時用の備蓄品（飲料水・保存食）の定期購入を継続し、当金庫本支店に備蓄しました。

<基本協定による協力内容>

1. 災害対策についての情報交換
2. 相互支援策の継続的な開発
3. 資金面での相互連携

【特徴】

相互の情報交換・協議を通し、具体的な災害対策を連携・協力して進めています。

149-FY2019-05

ペーパーレス化の導入

【原則7】

事業の業務運営に関わる環境負荷を軽減するため、庫内会議のペーパーレス化や本部決裁文書の電子化に取り組んでいます。

【特徴】

環境や社会問題に対する役職員の意識向上を図っています。

■ 茨城県信用組合

151-FY2019-01

認知症サポーター養成講座の実施

【原則3】【原則4】

当組合では、平成 24 年 12 月 3 日に茨城県と認知症普及啓発企業連携事業協定書を締結し、職員及び地域住民の皆様に対し、認知症に関する正しい理解の普及・啓発に取り組んでいます。平成 24 年度は地域住民を対象に、茨城県及び茨城県認知症アドバイザーご協力のもと、「認知症サポーター養成講座」を実施し、平成 25 年度には職員を対象に実施しました。

また、茨城県では 9 月を「認知症を知る月間」と定め、認知症の早期発見や予防の取組み促進のため、パンフレットを当組合全支店の窓口やロビー等に備え置き、普及・啓発に努めています。

151-FY2019-02

地域・社会に貢献する取組み

【原則4】

当組合では、「しんくみの日週間」にあたり、社会貢献活動の一環として、医療に必要な血液の安定的確保に寄与するため、茨城県赤十字血液センターの協力により、献血活動に協力しています。当組合は、平成 22 年 10 月に「献血サポーター」となりました。平成 26 年度からは、全職員・関連会社の職員を対象に、8～9 月の 2 ヶ月間、「献血バス」並びに「献血ルーム」での献血協力を実施しております。企業献血の実施は今回で 7 回目となります。今年度は延べ 270 名が協力しました。

151-FY2019-03

がん検診受診率向上のための取組み

【原則1】【原則4】

茨城県では、がんによる死亡率の低減を図るため、県と企業、事業者及び団体が「がん検診受診率向上企業連携プロジェクト」として協定を締結し、連携してがん検診の受診率向上に取り組んでいます。当組合でも県と協定を締結しました。そして平成 29 年から、県が主催する「茨城県がん検診推進サポーター養成研修会」へ参加しています。

また、茨城県では 10 月を「茨城県がん検診推進強化月間」と定め、がん検診をはじめとする、がんに関する正しい知識の普及・啓発に取り組んでいます。この取組みの一環として、県主催による講演会のポスターやリーフレットを当組合全支店の窓口やロビー等に備え置き、普及・啓発に努めています。

151-FY2019-04

しんくみピーターパンカード加入推奨について

【原則2】

当組合では、CSR 活動にあたり「しんくみの日」となる 9 月 3 日から約 1 ヶ月間、全職員に対しピーターパンカードの加入を推奨しました。同カードは、「社会貢献機能」として利用残高の 0.5%が、障害や難病とたたかっている子供たちやその家族への支援活動等として寄付されており、対象施設等にて寄付金の贈呈式を行っています。

151-FY2019-05

茨城県中小企業家同友会との中小企業者等の支援に関する覚書締結

【原則1】【原則4】

当組合は、中小企業者の経営安定に向けた取組みを実施することを目的として、茨城県中小企業家同友会と中小企業者等の支援に関する覚書を締結しました。今回の覚書をもとに、相互の研修会・セミナーへの参加などを通じて中小企業者への情報提供を行い、より一層地域経済の活性化に貢献していきます。

151-FY2019-06

障がい者・高齢者等に配慮したサービス向上について

【原則1】【原則6】

耳の不自由な方の相談内容に的確に対応するためのツールとして「コミュニケーションボード」を窓口に備え置き、渉外係は携行するようにしています。また、目が不自由な方が利用できる ATM を設置し、ホームページにて公表しています。

■ 西尾信用金庫

152-FY2019-01

地球温暖化対策への取組み

【原則1】

LED 照明の導入、電気自動車、電動バイクの使用、新築店舗への太陽光発電設備の設置、ATM の待ち受け画面の節電化（ATM 省電力対応システムの導入）

152-FY2019-02

にしん三河湾浄化推進活動(海岸清掃および応援定期預金の発売)

【原則3】

- ・当金庫の地元西尾市は、三河湾の中心に位置し、合併により三河湾の内陸に接した部分は約 35%と最大の市となったこともあり、身近な三河湾の水質浄化に取り組む三河湾浄化推進協議会の趣旨に賛同し、昭和 50 年から実施している西尾市吉良町の海岸清掃を平成 24 年 7 月市内 3 カ所の海水浴場に拡大、約 200 人が海岸清掃を実施しています。
- ・また、平成 24 年 7 月に「三河湾水質浄化応援定期預金」を発売、募集総額 80 億円の 0.01%、約 80 万円を三河湾浄化推進協議会に寄付し、三河湾の環境改善に役立てていただきました。

【特徴】

環境定期を発売し、持続可能な社会形成に資する金融商品の開発、普及、促進

152-FY2019-03

環境定期預金の発売

【原則3】

平成 23 年 11 月に、地域貢献のため「緑の募金」を通して、身近な森、緑作り意識を盛り上げるため、「にしん環境定期預金・緑の恵」、募集総額 80 億円を発売しました。発売にあたり（公社）愛知県緑化推進委員会と「覚書」を締結し、発売総額の 0.01%、約 80 万円を同会へ寄付しました。

【特徴】

環境定期を発売し、持続可能な社会形成に資する金融商品の開発、普及、促進

152-FY2019-04

ECOカーローン・リフォームプラン・エコ・ECO私募債の発売

【原則3】

平成 21 年より温暖化対策等地球環境保全を目的とした ECO 関連融資商品の取扱いを開始し、現在も取り扱いをしております。

【特徴】

ECO 関連融資商品を発売し、持続可能な社会形成に資する金融商品の開発、普及、促進

■ しずおか焼津信用金庫

168-FY2019-01

エコアクション 21 の取組み

【原則1】

当金庫では、「自然環境の保全と環境にやさしい事業活動を念頭に、地域社会と調和して継続的な環境保全活動に取り組みます」という環境基本方針を掲げ、平成 20 年より環境経営システム「エコアクション 21」に取り組んでいます。

行動方針および環境目標に基づいて定めた計画に沿って、環境に配慮した活動に取り組むとともに、PDCA サイクルを基本としたエコアクション 21 を通じて、継続的な改善を図っています。

【特徴】

活動推進にあたっては全店より CSR リーダーを選任し、取組みを強化しています。また、県内金融機関において、エコアクション 21 の認証登録取得（平成 21 年に本部・本店、平成 25 年には全店にて取得）は初となっています。このような取組みが評価され、平成 25 年には環境省試行事業「チャレンジエコアクション 21」の参加金融機関に選出され、地元企業の環境経営導入支援を行いました。

168-FY2019-02

環境配慮型金融商品の取扱い

【原則2】

自らが販売・提供する商品への環境配慮として下記の商品を取扱い、環境に配慮した融資資金については金利を優遇しています。

1. 環境応援融資「エコ・セレクトローン」
太陽光発電設備の設置、低公害車の購入、環境対策や整備を目的とした事業用資金等、環境へ配慮した事業用融資の金利優遇商品です。
2. 環境配慮型商品「カーライフプラン・エコ」「リフォームプラン・エコ」
エコカーの購入資金、エコ関連設備の購入・設置資金等、環境配慮型の消費者ローン商品です。

【特徴】

エコアクション 21 環境目標項目「自らが販売・提供する商品及びサービスに関する環境配慮」に関する取組みとして位置付けています。お客様のニーズと照らし合わせ、商品性等の見直しを図っています。

168-FY2019-03

しずおか未来の森サポーター「谷津山再生活動」の実施

【原則3】【原則7】

当金庫では、平成 22 年より静岡市中心市街地にある里山「谷津山」の整備活動に取り組んでいます。市街地の緑地として重要な役割を担っている谷津山ですが、近年放置竹林が広がり土砂崩れなどの恐れがあることから、当金庫では市民の憩いの場、自然体験等の環境教育の場として再生し、未来に自然を残そうと活動しています。

活動内容は以下の通りです。

1. 整備活動（下草刈り、竹の伐採）
地域の環境保全活動として、役職員が整備活動を実施しています。

2. 環境教育活動

子供たちが自然に触れながら、楽しく学べるように、自然教室や工作体験等を実施しています。

3. PR 活動

店頭、HP、社内外のイベント会場にて、谷津山の現状や当金庫の活動内容を紹介しています。

4. ハイキングコースの整備

谷津山散策用の案内看板を谷津山内に設置し、見どころを紹介しています。

5. 植樹

平成 24 年 3 月、当金庫が日頃整備活動をしているエリアにおいて、創立 80 周年を記念した植樹会を実施しました。

【特徴】

しずおか未来の森サポーター活動として、平成 22 年に静岡県と協定を締結し、社会貢献活動の一環として取組んでいます。運営には若手職員（入庫 1～3 年目）が携わり、役職員の交流の場にもなっています。この取組みにおいては、地元に着目する環境保全活動を通じ、社員教育も実施していることが評価され、平成 27 年 8 月に環境省・環境人材育成コンソーシアムが主催する「環境人づくり企業大賞 2014」で奨励賞を受賞したほか、平成 29 年 6 月全国信用金庫主催 第 20 回「信用金庫社会貢献賞」で face to face 賞を受賞しました。

168-FY2019-04

環境配慮型の店舗づくり

【原則5】

「環境への配慮」をコンセプトとし、下記のような環境配慮型設計を取り入れながら、お客様がご利用しやすい店舗作りを進めています。

- ・ 太陽光発電設備による二酸化炭素排出量の削減
- ・ LED 照明を採用した省エネ対策
- ・ 熱遮断ガラスフィルムによる空調負荷低減、自然採光の有効活用
- ・ 駐車場の緑化、熱交換塗料の塗布

【特徴】

エコアクション 21 環境目標項目「二酸化炭素排出量の削減」に関する取組みとして位置付けており、店舗新築時には環境配慮型の店舗設計を推進しています。

■ 飯田信用金庫

179-FY2019-01

事業活動における環境負荷軽減の取り組み

【原則1】【原則6】

電力等エネルギー使用量の削減に取り組み、平成 30 年度の二酸化炭素排出量は 1,224 トンとなり、基準年度とする平成 12 年度に比べ 35.6%削減することができました。この結果、預金 1 億円あたりの二酸化炭素排出原単位は 0.22 トンとなり、平成 12 年度に比べ 56.0%減少しております。

179-FY2019-02

リサイクルの推進

【原則1】【原則6】

- ・廃棄物のリサイクルをすすめ、平成 30 年度は事業活動により発生する廃棄物の 95.3%をリサイクルいたしました。総廃棄物量は 62,356 kg で、廃プラと廃タイヤはサーマルリサイクル（高炉燃料）、その他はマテリアルリサイクル（再資源化）しております。
- ・環境に配慮した素材の利用を進めており、新ユニフォームのスカートはペットボトル再生繊維を 60%使用しており、使用後の制服はサーマルリサイクルしております。また、紙 100%で出来たエコクロス通帳の利用やベジタブルインキの利用をしております。

179-FY2019-03

二酸化炭素排出量削減に効果のある商品の購入に際しての融資金利を優遇するローンの取り扱い

【原則2】

平成 17 年度から二酸化炭素排出量削減に効果のある商品の購入に際しての融資金利を優遇するローンを取り扱っております。平成 30 年度の住宅関連融資については 42 件 994 百万円の新規ご利用をいただき、二酸化炭素排出量削減効果 は 150 トンとなっております。

179-FY2019-04

環境情報の発信等

【原則3】【原則4】【原則5】【原則7】

- ・天竜川水系環境ピクニック（環境ボランティア活動）へ参加しております。
- ・飯田市の「燃やすごみ」袋へ当金庫の広告を掲載しております。なお広告料は飯田市の環境改善政策に活用されております。
- ・地域ぐるみ環境 ISO 研究会へ参加しております。
- ・長野県環境保全協会事業へ参加しております。
- ・飯田市条例に基づく住民主体の再生可能エネルギー事業の支援をしております。
- ・ISO14001 最新規格 2015 年版へ認証を更新しました。
- ・当金庫 SDG s 宣言を公表するとともに、長野県 SDG s 推進企業登録制度へ申請を行い、職員意識の向上、ならびに地域への発信に取り組んでおります。

■ 大阪シティ信用金庫

233-FY2019-01

緑化支援事業を応援する積金商品の発売と寄付金の寄託

【原則2】【原則3】

大阪府が「みどりの風を感じる大都市・大阪」をめざして実施している緑化支援事業を応援するため、平成27年から毎年6月の「信用金庫の日」に「シティ信金“みどりの風の道”定期積金」を発売しました。販売終了後、同積金の総契約額の0.05%相当額を当金庫が拠出し、大阪府に寄託しています。贈呈式では、当金庫の高橋理事長が大阪府の竹内副知事に寄付目録を贈呈し、またその寄付に対し、大阪府から感謝状を受領しました。寄託金は、緑化重点区域の活動資金に充てられます。

【特徴】

今年も6月15日に積金を発売し、同様に契約額の一定額を寄託しました。

233-FY2019-02

「SAKAIエコ・ファイナンスサポーターズ倶楽部」への参画

【原則7】

当金庫は、「SAKAI エコ・ファイナンスサポーターズ倶楽部」に参加しています。同倶楽部は、快適な暮らしとまちの賑わいが持続する低炭素都市『クールシティ・堺』の実現のため、市民が環境改善へのイノベーションに取り組む際の金融面でのサポート体制の構築を目的としています。当金庫は、堺市在住の市民・事業者の皆さまのニーズに応じた環境配慮型金融商品を提供しています。

233-FY2019-03

環境への配慮、環境意識の向上を応援する金融商品の発売

【原則2】【原則3】

「大阪シティリフォームローン増・快・築」を取り扱っており、環境に配慮した設備の導入資金としてご利用いただく場合、金利を「0.402%（シーオーツー）」マイナスしています。また、特に環境性能に優れた自動車を購入される場合に、通常のカーローンより低廉な保証料率でご利用いただける「カーライフプラン・エコ」を取り扱っています。ほかにも、環境問題に積極的に取り組む日本国内の株式に分散投資し、長期安定的な信託財産の成長をめざすエコ・ファンド「損保ジャパン・グリーン・オープン/愛称・ぶなの森」を取り扱っています。

233-FY2019-04

環境負荷の少ないエコ製品を粗品に採用

【原則2】【原則3】

お取引先に配布する粗品について、環境にやさしい洗剤や、漂白剤不使用のタオル、再生紙のメモ帳・ポケットティッシュなどを採用しています。

233-FY2019-05

全店で店舗近隣エリアの早朝清掃を実施

【原則2】【原則3】

当金庫では、昭和59年から30年以上にわたり、全店で店舗近隣や駅前、公園などの早朝清掃を実施しています。地域の一員としての社会的責任と地域への感謝の気持ちをもって各店が自発的に実施してきた

もので、毎月実施しています。また、当金庫の創立記念日（11月11日）と信用金庫の日（6月15日）には、全店一斉に早朝清掃を実施しています。

233-FY2019-06

職員による環境負荷低減の取組

【原則7】

日常の業務運営で、役職員に常に環境保護に意識を持ってもらうため、冷暖房空調機器、OA 機器、照明器具などにおいて、無駄な電力使用（省エネ ATM や LED への更新、照明器具の削減、稼働時間の短縮等）を排除するとともに、夏季に「クールビズ」、冬季に「ウオームビズ」を実施し、省エネに努めています。

■ 沖縄県労働金庫

245-FY2019-01

「ろうきん・わしたシマづくり運動基金」の取り組み

【原則1】【原則2】【原則3】【原則6】

- ・NPO 団体等への支援として、自動機の取り引きに応じて寄付金額を積み立て、地域で活動する団体へ寄付することによりその活動を支援する「ろうきん・わしたシマづくり運動基金」を創設しました。2018年度は16団体へ総額100万円を寄付しました。

245-FY2019-02

「ろうきん 全労済 働く仲間のゆめ・みらい基金」の設立

【原則1】【原則2】【原則4】【原則6】【原則7】

- ・「子どもの貧困」と、その背景にある「親（労働者）の貧困」問題の改善・解決に向け、2016年10月に「ろうきん働く仲間のゆめ・みらい基金」を設立し、(公財)沖縄県労働者福祉基金協会を事務局として運営を開始しています。「働く」につながる支援を基本方針とし、養育する子どもがいる親の就労・生活支援や、職業資格の受験費用等の捻出が困難な就学生（高校生等）に対する費用等を支援しています。2018年4月1日からは、全労済沖縄推進本部が参画し、名称を「ろうきん 全労済 働く仲間のゆめ・みらい基金」に変更するとともに、全県的な運動をめざし、より精力的に取り組を進めています。

■ 九州労働金庫

249-FY2019-01

環境に配慮した取組み

【原則1】【原則2】【原則5】【原則7】

九州ろうきんでは、企業の社会的責任（CSR）を果たすために、「ろうきん 5R 運動」（Rokin の Refuse、Reduce、Reuse、Recycle）と称して、地球温暖化防止に向けた以下の取組みを行っています。

- ① 二酸化炭素削減の一環として、室内の冷房温度を 28 度、暖房温度を 19 度に設定するとともに、照明の部分消灯や LED への切り替え等を行い、節電に努めています。
- ② 事務用品や機器の購入に際し、環境に配慮した製品を優先して購入する「グリーン購入」を実践しています。
- ③ タブレット端末を利用したペーパーレス会議システムを導入し、紙の資料の削減に努めています。

249-FY2019-02

ピンクリボン運動への支援取組み

【原則1】【原則4】【原則5】

九州ろうきんの ATM のご利用 1 回につき 1 円を当金庫が拠出し、ピンクリボン運動を推進している団体へ寄付を行うなど、ピンクリボン運動を支援する取組みを 2011 年 10 月より行っています。2018 年度は、ピンクリボン運動を推進している九州の NPO へ合計 320 万円の寄付を行ったほか、職員がピンクリボンのイベントへ参加し、募金活動やリーフレット配布を行うなど共同での啓発活動に取り組みました。

249-FY2019-03

子どもたちの成長を応援する活動・児童養護施設の子どもたちへの支援活動

【原則1】【原則2】【原則4】【原則6】【原則7】

- ① 社会貢献預金「こども未来応援定期」の取組み

「子どもたちを支援する団体」を応援することを目的として、2019 年 4 月より社会貢献預金「こども未来応援定期」の取り扱いを開始しました。

社会貢献預金「こども未来応援定期」は定期預金作成の店頭表示金利より金庫所定の金利（0.1%）を引き下げた金利を適用金利とし、その金利の引き下げ幅分の利息相当額を「お客さまの寄付額」とみなして、九州 7 県の「子どもたちを支援する団体」へ寄付する預金です。
- ② 図書寄贈の取組み

九州各県の児童養護施設に、子どもたちが希望する図書を寄贈しています。2011 年 10 月の取組開始から 2019 年 3 月末までに、合計 9,514 冊を寄贈しました。また、図書寄贈に対して子どもたちからいただいたお礼のメッセージカードは、地域の皆さまとともに成長を見守ることを目的に、最寄りの営業店に掲示させていただいています。
- ③ メセナシートの取組み

福岡市のヤフオクドームで開催されるソフトバンクホークス戦全試合に、「メセナシート」（ビューフェッ付観戦席）を 1 試合あたり 16 席設け、児童養護施設の子どもたちを招待しています。2018 年シーズンは、57 施設 821 名を招待し、観戦した子どもたちからは、多くの心温まるお礼状をいただくなど、好評を得ています。

249-FY2019-04

「エコ住宅」優遇制度の実施

【原則2】【原則5】

九州ろうきんでは、オール電化システムなどの環境に配慮したシステムを備えた「エコ住宅」を対象として、2016年度より住宅ローンの金利を優遇する制度を設けており、この制度を通じて環境負荷の低減に取り組んでいます。

249-FY2019-05

NPOと協働した取組み

【原則1】【原則2】【原則4】【原則6】【原則7】

①九州ろうきん「NPO助成」

NPOなどの活動を支援するために実施している助成制度で、2019年度で16回目となります。助成金は、お客さまからのボランティア預金「NPOパートナーズ」による寄付金と当金庫の拠出金を財源としており、2019年3月末までに累計1,078団体へ2億34百万円を助成しました。

②ボランティア預金「NPOパートナーズ」

店頭金利から引き下げた金利でお預け入れいただく定期預金で、金利引き下げ相当額は、九州ろうきん「NPO助成」の助成金の一部として活用させていただいています。なお、預金残高は、2019年3月末現在で1,938件10億35百万円となっています。

③NPO自動寄付システム「NPOサポーターズ」

指定日に、お客さまの普通預金口座から、お客さまが応援するNPOの口座に自動振替で寄付する制度です。1回の寄付額は100円以上で、寄付先は、市民への情報公開性や事業の社会性等を基準に当金庫が選定したNPO法人の中からご選択いただけます。

④NPO事業サポートローン

NPOの運転資金や設備資金をご融資し、資金面でサポートする制度です。2019年3月末で累計58件4億80百万円をご融資しました。また、2017年度に商品性を見直し、返済期間の延長や法人格取得後、はじめて到来する事業年度の決算が確定していなくても申込みいただけるなど、利便性を高めました。

⑤NPO振込手数料免除制度

NPOの運営に欠かせない会費や寄付金集めを、九州ろうきんの本支店を利用して振り込みで行う場合に、年間100件を上限として手数料を免除する制度です。2019年3月末で累計30団体にご利用いただいています。

249-FY2019-06

災害に関する取組み

【原則1】【原則3】【原則4】【原則6】

九州ろうきんでは、災害で被災された方の生活や住宅の復旧・復興を目的として、低利でご利用いただける「災害救援ローン」および「災害救援住宅ローン」の取り扱いを行っています。また、住宅ローンをはじめとした、返済計画の見直し等に関するご相談をお受けしています。

249-FY2019-07

社会的課題(奨学金問題)に関する取組み

【原則1】【原則4】【原則6】【原則7】

九州ろうきんでは、勤労者およびその家族に対して、奨学金返済にかかわる相談および奨学金借換に必

要な資金を融資することにより返済負担額等の軽減を図り、勤労者とその家族の生活の改善および向上に寄与することを目的として、2018年4月より労働者福祉南部ブロック協議会（九州各県の労働者福祉協議会）と連携した以下の取り組みを開始しました。

① 教育ローン（奨学金借換専用「つなぐ」）

奨学金の毎月返済額や返済期間の見直しなどの多様なニーズに応えるために、通常のエデュローンよりも低利な奨学金借換専用ローン「つなぐ」の取り扱いを2018年4月より開始し、2019年3月末現在で157件3億68百万円をご融資しました。

② 奨学金返済困難者に対する相談窓口の設置

奨学金返済にかかわるご相談に対応するため、各営業店および労働者福祉協議会のライフサポートセンターに相談窓口を設置しました。なお、ご相談状況に応じて、セーフティネット（弁護士や司法書士）の紹介なども行っています。

■ 新潟県労働金庫

250-FY2019-01

ろうきん森の学校

【原則7】

「ろうきん森の学校」は、労働金庫連合会の50周年記念事業として、豊かな森の再生、環境問題に取り組む人材の育成を目的に2005年10月に全国3地区（福島地区、富士山地区、広島地区）で開校し、2015年以降新たに2地区（新潟地区、岐阜地区）の活動拠点を増設し、合計5地区で環境教育事業を進めております。

新潟地区については、2015年度に新潟県南魚沼市浦佐地区に活動拠点が設置され、ろうきん職員やその家族をはじめ、会員の方からも作業やイベントに参加いただきました。5年目となる2019年度は、活動拠点を上越市西部に移し、「森づくり」から「人づくり・地域づくり」につながる環境教育事業をさらに発展させ、人と地域のつながりの充実につとめます。

【特徴】

ろうきん森の学校の特徴

- ① 「森づくり」から、「人づくり・地域づくり」につなげる自然学校運動
- ② 現地NPOが主導する「地域主体型」活動の定着
- ③ 支援団体関係者への体験プログラムを通じた「環境マインドの醸成」

250-FY2019-02

節電、夏季軽装等の取組み

【原則1】【原則5】【原則7】

冷暖房の適正温度設定やクールビズの実践、グリーン商品の購入など、省エネ・省資源につとめ、環境負担軽減をはかっています。また、「にいがた緑の百年物語」（緑の募金）に協賛しています。

【特徴】

各種取組みを通じて、職員の省エネに対する意識向上に努めています。

250-FY2019-03

新潟県生活協同組合連合会との「緊急災害対策等に係る相互連携協定」の締結

【原則3】

当金庫と新潟県生活協同組合連合会は、大規模自然災害発生時における地域への支援活動について、協同組合間の相互連携を図り、復旧・復興への取組みをすすめるため、協定を締結しています。

■ 東北労働金庫

253-FY2019-01

「社会貢献目的預金(ろうきんふれ愛預金)」

【原則2】

2012年10月より、地域の社会福祉施設等の支援を目的とした「社会貢献目的預金(ろうきんふれ愛預金)」の取り扱いを開始しました。

お客様からお預入いただいた定期預金(預入期間1年)店頭表示金利と適用金利(店頭表示金利から30%を減じた金利)の差による利息相当額に、当金庫からの拠出金等を加算し、東北6県内の福祉団体、福祉施設等へ2013年度から寄付を行っております。

10月に各県本部に設置している「寄付先選定委員会」で寄付先を決定し、11月～12月に寄付を行っております。

【特徴】

2018年度は、44団体に対して総額406万円の寄付金贈呈を行いました。

253-FY2019-02

東北ろうきん復興支援助成金制度

【原則3】

2012年10月より、「東北ろうきん復興支援助成金制度」を創設し、2012年度より助成を行っております。「東日本大震災からの復興・被災者への支援」および「当庫が定める社会貢献活動」に取り組むNPOやボランティア団体の活動支援を目的として実施しています。

10月～11月に募集を開始し、12月に助成先を選考し、翌年1月に助成金を交付しております。

【特徴】

2018年度は、41団体からの応募を受付け、選考の結果、10団体に対して1団体あたり30万円の助成金を交付し活動支援を行いました。

253-FY2019-03

環境負担軽減の取り組み「節電、LED照明の導入」「夏季軽装(クールビズ)」

【原則5】

[節電、LED照明の導入]

店舗における電気の使用量を可能な限り抑えるため、経済産業省で示す「オフィスビルの節電メニュー」で示す内容に基づき、全部店が節電の取り組みを実施しました。また、営業店の一部および本部ビルオフィス内にLED照明を導入し、省エネルギー化に取り組んでおります。

[夏季軽装(クールビズ)]

2019年5月1日～2019年9月30日までの期間、夏季軽装を実施しています。期間中、冷房温度を28度(営業店26度)に設定し、男子職員は原則、ノー上着・ノーネクタイ、女子職員はリボンタイを非着用としています。

253-FY2019-04

自然保護等の社会貢献活動「ろうきん森の学校」

【原則7】

労働金庫連合会の50周年記念事業として、里山再生を通じた人づくりをテーマに全国5箇所を実施する「森の学校」で、福島県いわき市「湯の岳の山荘」が選ばれ、NPO法人「いわきの森に親しむ会」との協働により、自然観察会、間伐、炭焼き等の自然体験を通じ、環境普及を図っています。

【特徴】

「ろうきん森の学校」は2005年よりスタートし、森での楽しい活動を通じ、多くの人々が「森に興味を持ち」「森を大切にすする」気持ちを育むことで個人のライフスタイルを見直すきっかけを作る活動で、今般「国連生物多様性の10年日本委員会（UNDB-J）」が推奨する連携事業に認定されました。2015年度から第Ⅱ期がスタートし、新たに2地区を加え、全国5地区で次の3つを柱に活動しています。

- ① 森を育む（＝植樹・間伐・下草刈り等の森林整備作業）
- ② 人を育む（＝森林作業・自然体験のリーダー育成）
- ③ 森で遊ぶ（＝里山での自然体験プログラム開発および実施）

2018年度は延べ8,383名の参加をいただきました。

253-FY2019-05

自然保護等の社会貢献活動「ふれ愛の森ロッキー」

【原則7】

森林資源の維持増進と自然環境の保全を図るとともに、会員をはじめ市民の皆様の自然とのふれあいの場、各種レクリエーションの場として活用いただくことを目的に、1998年に西蔵王にオープンしております。森林内には、スギ、ブナ、ナラ、カエデ、クリ、サクラ等、約32,000本が生い茂り、自然を満喫しながら散策できる遊歩道があります。

253-FY2019-06

東北6県生活協同組合連合会との「緊急災害対策等に係る相互連携協定」の締結

【原則3】

当金庫と青森県生活協同組合連合会・岩手県生活協同組合連合会・宮城県生活協同組合連合会・秋田県生活協同組合連合会・山形県生活協同組合連合会・福島県生活協同組合連合会は、大規模自然災害発生時における地域への支援活動について、協同組合間の相互連携を図り、復旧・復興への取組みをすすめるため、協定を締結しています。

■ 第一勧業信用組合

285-FY2019-01

環境省の「新たなグリーンファイナンス・スキーム構築支援に係る企画提案」に当組合提案が採択されました

【原則2】【原則4】

地域金融機関共同環境未来投資事業有限責任組合〈通称：環境未来ファンド〉
(仮称)～地域金融機関共同で環境分野向けファンドの設立～

【特徴】

エネルギー分野、汚染防止分野といった環境分野における地域の課題解決に向け、全国各地の地域金融機関がファンドへの出資を通じて連携協力して ESG 投資を行うスキーム構築を目指す。

■ 鹿児島相互信用金庫

293-FY2019-01

SDGs へのコミットメントと普及促進活動

【原則1】

2018年10月、これまで、地域のための協同組織金融機関として取り組んできた実績と経験をもとに、更なる地域の社会課題、経済課題、環境課題の解決に取り組み、「持続可能な地域社会の実現に貢献すること」及び「地域の各主体とのパートナーシップの下、SDGsの普及に努めること」を目的として「そうしんSDGs宣言」を表明しました。

【特徴】

SDGsの取組みに関する宣言を表明したのは、九州の金融機関を含む企業体として、また全国の信用金庫でも初の取組みとなりました。

293-FY2019-02

持続可能な地域社会に貢献する中小企業の育成・支援

【原則2】

地域経済の発展・振興等に優れた成果をあげた企業・団体を表彰し、地元中小企業の発展・育成に寄与することを目的として「そうしんビジネス・イノベーション大賞」を開催しています。

【特徴】

2019年度は新たに「SDGs部門」を設け、SDGsの達成に資する優れた経済活動を行う企業・団体を表彰し、当該企業・団体の活動を支援するとともに、鹿児島県内企業に対するSDGsの普及促進を図っています。

293-FY2019-03

持続可能な地域社会に貢献する事業者の創業・成長支援

【原則2】

鹿児島県にとって重要である一方で、廃業率が高いという課題がある「飲食業」の創業や成長を支援するため、2019年9月から飲食業に特化した創業支援プログラム「そうしん食の起業家養成アカデミー」を実施しています。鹿児島県内の各専門家による講義のほか、創業前のフードトラックによるトライアルなど、研修と実践の場を提供により事業者の創業・成長を支援します。

293-FY2019-04

環境配慮や福祉に配慮した商品の提供

【原則2】

エコ・カーライフプラン、エコ・ローン、エコ・リフォームプランなどのローンや、「がんから守る」定期預金、子育て支援積金（ハローキッズ元気積金）など、環境や福祉に配慮した商品の提供を行っています。

293-FY2019-05

自治体と連携した地域課題の解決に向けた商品・サービスの提供

【原則4】

人口減少・少子高齢化問題（長島町ぶり奨学プログラム、大崎町リサイクル未来創生奨学パッケージ、南大隅町ネッピー・みさきちゃん奨学ローン）や空き家問題（長島大陸空き家活用ローン、長島大陸空き

家活用つなぎローン、西之表市移住・定住促進ローン) など、自治体と連携して地域課題の解決に取り組むとともに、商品・サービスの提供を行っています。

【特徴】

自治体、大学、企業など、様々なステークホルダーとのパートナーシップを意識した取組みとしています。

293-FY2019-06

環境・福祉に配慮した店舗づくり

【原則5】

太陽光発電や地熱空調システムなどの環境への配慮やバリアフリーや多目的トイレなど高齢者やお客様連れにも優しい店舗づくりを順次行っています。

293-FY2019-07

持続可能な地域社会に貢献するための役職員の意識向上

【原則7】

2019年4月、役職員のSDGsへの理解促進、意識向上を図ることを目的として、全役職員が達成を目指す「My SDGs 宣言」を行いました。

【特徴】

役職員の名刺にはSDGsロゴをあしらい、お客様への挨拶時にSDGsに関するコミュニケーションの機会を確保しています。
